

鴨川市文化財保護審議会第2回会議

日時 令和6年3月14日(木)
午後1時30分から
場所 鴨川市文化財センター

- 1 開会
- 2 あいさつ
- 3 議事
 - (1) 鴨川市文化財保存活用地域計画について
 - (2) その他
- 4 閉会

配布資料

次第

委員名簿

出席者名簿

資料1 市民アンケート集計結果

資料2 鴨川市文化財保存活用地域計画

参考資料 鴨川市文化財保存活用地域計画策定協議会第2回会議会議録

鴨川市文化財保護審議会委員名簿

氏 名	住 所	分 野	備 考
渡邊 宏	鴨川市佐野	有形文化財 (建築)	副会長 元明石工業高等専門学校教師
松原 智美	中野区野方	有形文化財	中野区文化財保護審議会委員 美術史家
佐藤 恵重	鴨川市江見青木	有形文化財	元千葉県立安房博物館上席研究員 元鴨川市立長狭中学校長
小谷 善親	鴨川市内浦	有形文化財	会長 元鴨川市立小湊小学校長 善龍寺住職
富樫 辰也	鴨川市内浦	記念物 (海洋)	千葉大学海洋バイオシステム 研究センター 教授
鎌田 直人	鴨川市天津	記念物 (植物)	東京大学大学院農学生命科 千葉演習林 林長

任期：令和５年４月１日から令和７年３月３１日まで

鴨川市文化財保護審議会第2回会議 出席者名簿

日時 令和6年3月14日（木）

午後1時30分から

場所 鴨川市文化財センター

1 委員

No.	氏名	分野	備考
1	渡邊 宏	有形文化財 (建築)	副会長
2	佐藤 恵重	有形文化財	
3	小谷 善親	有形文化財	会長
4	松原 智美	有形文化財	

【欠席委員】

No.	氏名	分野	備考
1	富樫 辰也	記念物（海洋）	
2	鎌田 直人	記念物（植物）	

（順不同、敬称略）

2 市行政関係者

所属・職	氏名	備考
教育委員会教育次長	山口 昌宏	
教育委員会生涯学習課長	岡安 泰弘	
教育委員会生涯学習課 文化振興係長	畑中 博司	
教育委員会生涯学習課 文化振興係	永井 宏直	

鴨川市文化財に関する市民アンケート 集計結果

- 1 回答期間 令和5年9月1日～10月31日
- 2 配布数
 - (1) 住民基本台帳から無作為抽出した16歳から89歳までの市民300人
 無作為抽出の条件

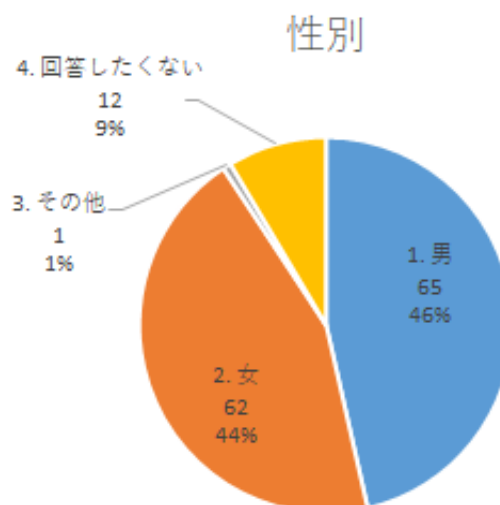
16歳～34歳	75人
35歳～49歳	75人
50歳～64歳	75人
65歳～89歳	75人
 - (2) 指定文化財所有者、管理者又は保存団体 30団体
 - (3) 歴史文化の関係団体及び会員 40人
 - (4) 市ホームページによるアンケートの案内
 - (5) Line及びXによるアンケートの案内
- 3 回答数 140件
- 4 集計結果



問1 性別

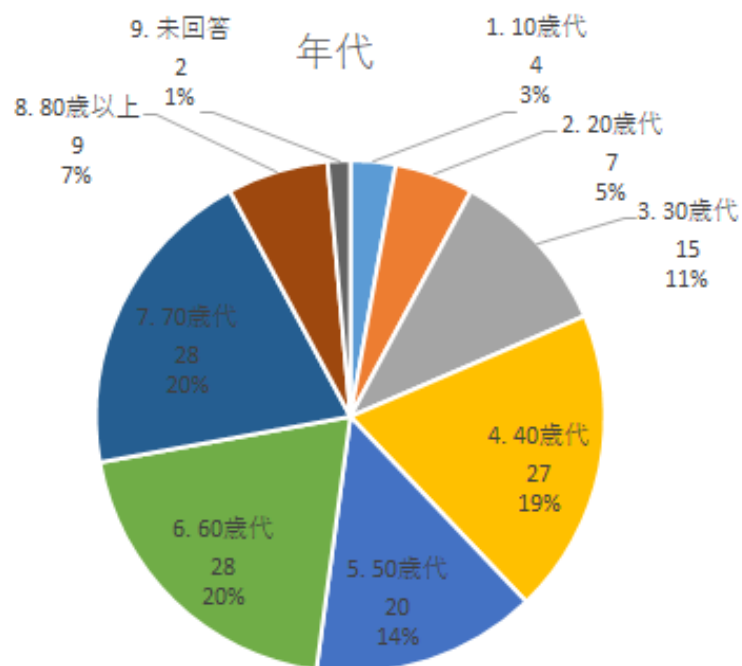
性別	件数	割合
1. 男	65	46.4%
2. 女	62	44.3%
3. その他	1	0.7%
4. 回答したくない	12	8.6%

140

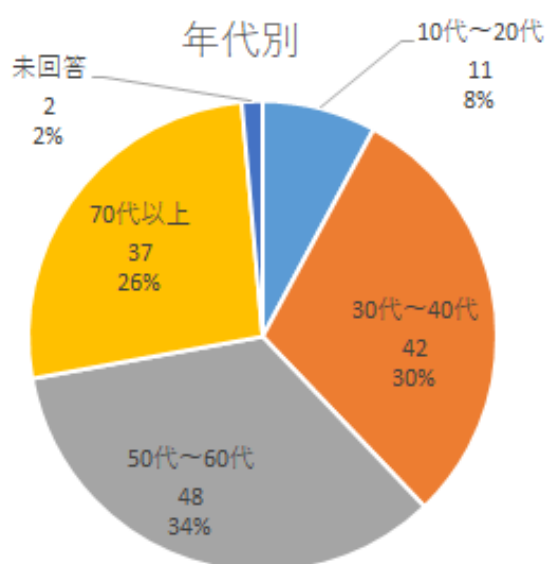


問2 年代

年代	件数	割合
1. 10歳代	4	2.9%
2. 20歳代	7	5.0%
3. 30歳代	15	10.7%
4. 40歳代	27	19.3%
5. 50歳代	20	14.3%
6. 60歳代	28	20.0%
7. 70歳代	28	20.0%
8. 80歳以上	9	6.4%
9. 未回答	2	1.4%
総回答数	140	



年代	人数	割合
10代～20代	11	7.9%
30代～40代	42	30.0%
50代～60代	48	34.3%
70代以上	37	26.4%
未回答	2	1.4%
総回答数	140	

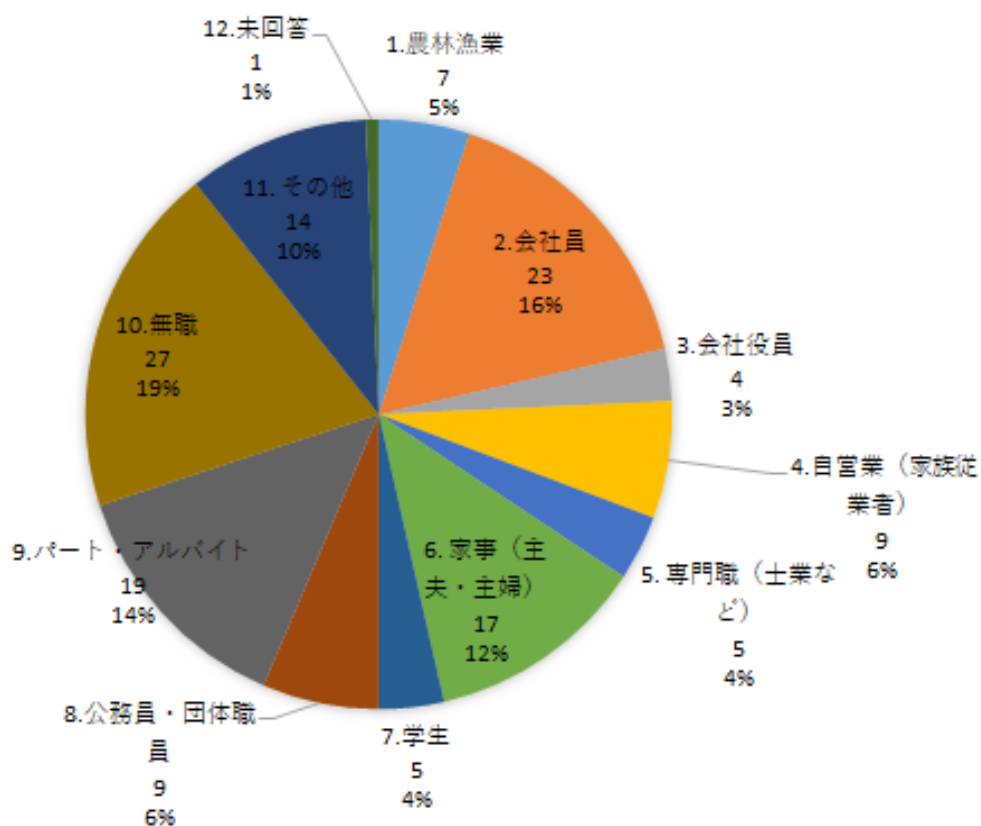


問3 職業構成

職種	件数	割合
1.農林漁業	7	5.0%
2.会社員	23	16.4%
3.会社役員	4	2.9%
4.自営業（家族従業者）	9	6.4%
5. 専門職（士業など）	5	3.6%
6. 家事（主夫・主婦）	17	12.1%
7.学生	5	3.6%
8.公務員・団体職員	9	6.4%
9.パート・アルバイト	19	13.6%
10.無職	27	19.3%
11. その他	14	10.0%
12.未回答	1	0.7%

140

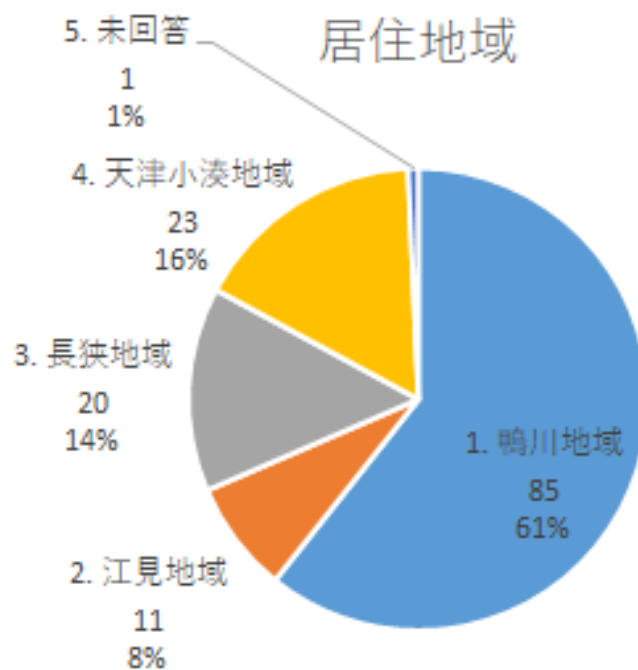
職業構成



問4 居住地域

地域	件数	割合
1. 鴨川地域	85	60.7%
2. 江見地域	11	7.9%
3. 長狭地域	20	14.3%
4. 天津小湊地域	23	16.4%
5. 未回答	1	0.7%

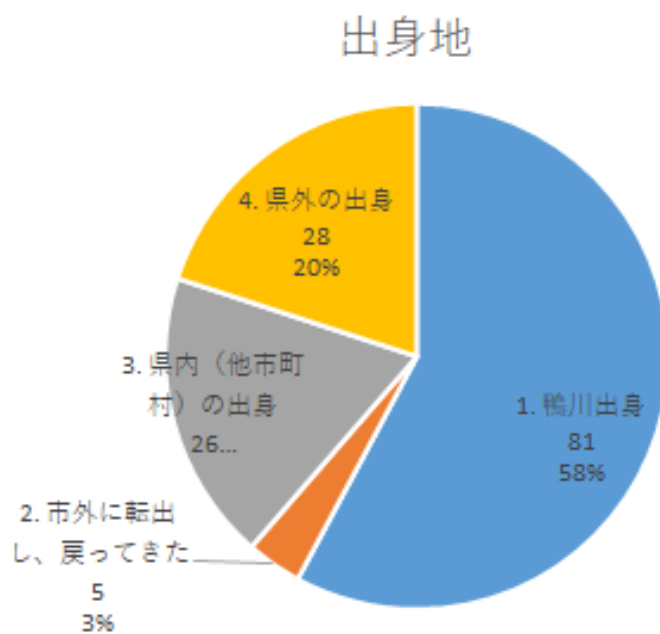
140



問5 出身地

出身地	件数	割合
1. 鴨川出身	81	57.9%
2. 市外に転出し、戻ってきた	5	3.6%
3. 県内（他市町村）出身	26	18.6%
4. 県外出身	28	20.0%

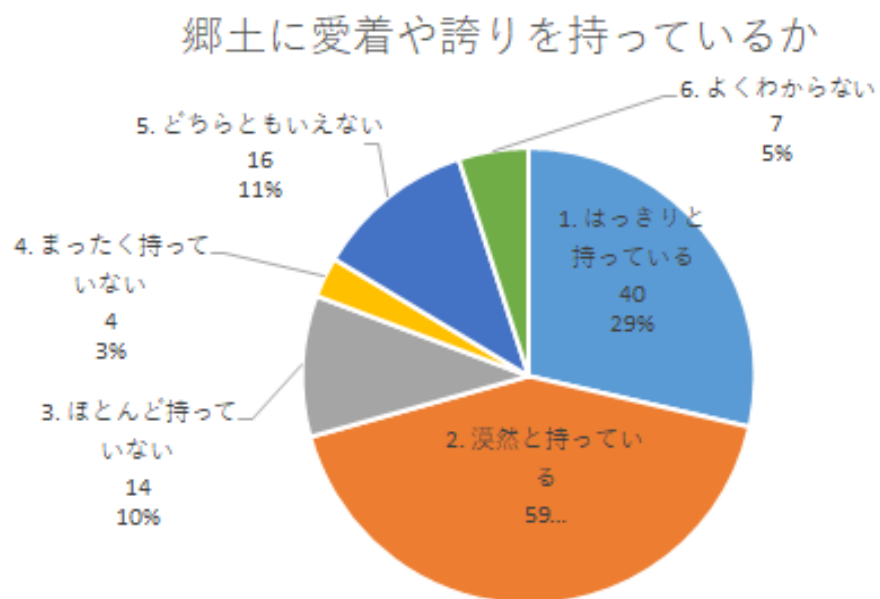
140



問6 郷土に愛着や誇りを持っているか

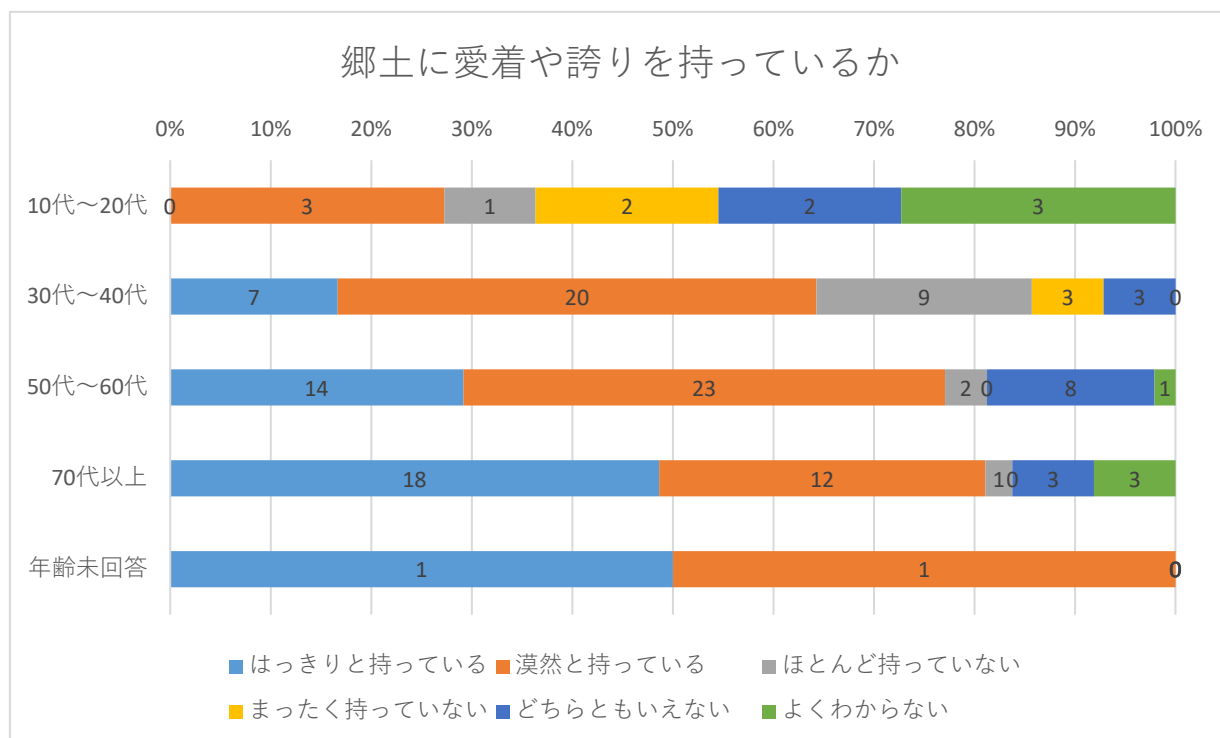
郷土に愛着や誇りを持っているか	件数	割合
1. はっきりと持っている	40	28.6%
2. 漠然と持っている	59	42.1%
3. ほとんど持っていない	14	10.0%
4. まったく持っていない	4	2.9%
5. どちらともいえない	16	11.4%
6. よくわからない	7	5.0%

140



郷土に愛着や誇りを持っているか	10代～20代	30代～40代	50代～60代	70代以上	年齢未回答	合計
はっきりと持っている	0	7	14	18	1	40
漠然と持っている	3	20	23	12	1	59
ほとんど持っていない	1	9	2	1	0	13
まったく持っていない	2	3	0	0	0	5
どちらともいえない	2	3	8	3	0	16
よくわからない	3	0	1	3	0	7

140



問7 郷土に愛着や誇りを持っている理由

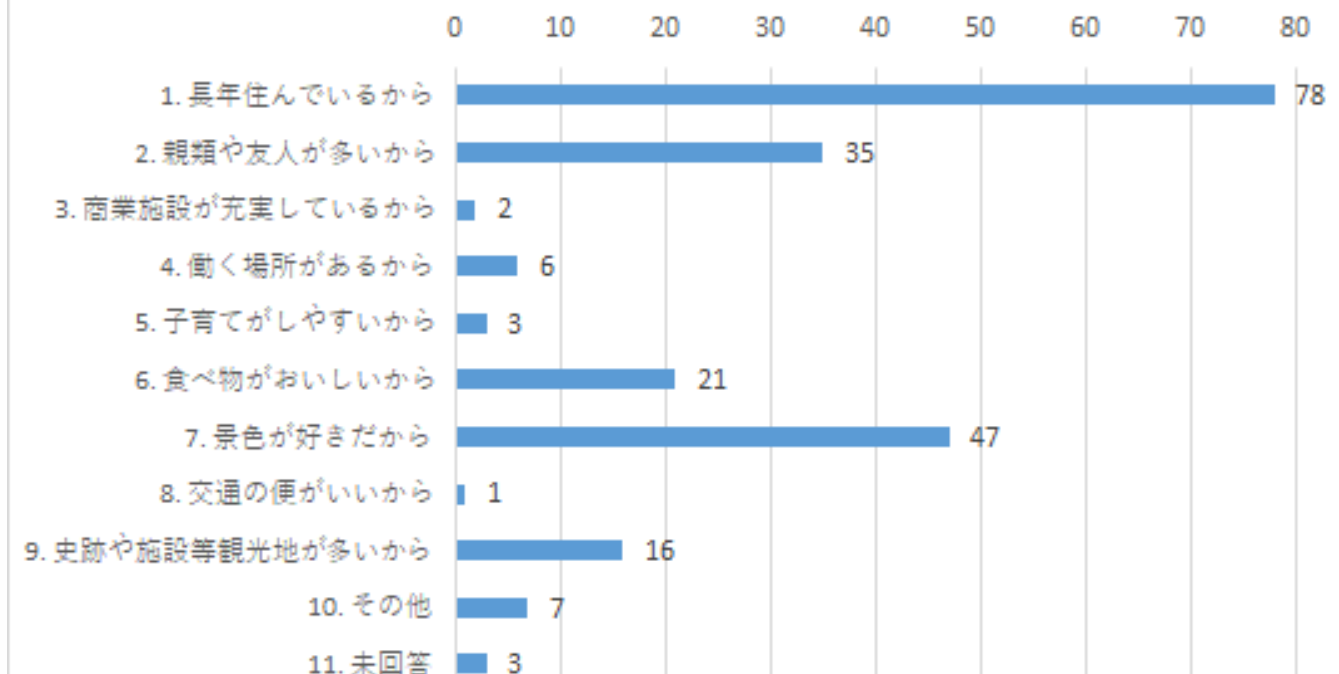
理由	件数
1. 長年住んでいるから	78
2. 親類や友人が多いから	35
3. 商業施設が充実しているから	2
4. 働く場所があるから	6
5. 子育てがしやすいから	3
6. 食べ物がおいしいから	21
7. 景色が好きだから	47
8. 交通の便がいいから	1
9. 史跡や施設等観光地が多いから	16
10. その他	7
11. 未回答	3

219

その他

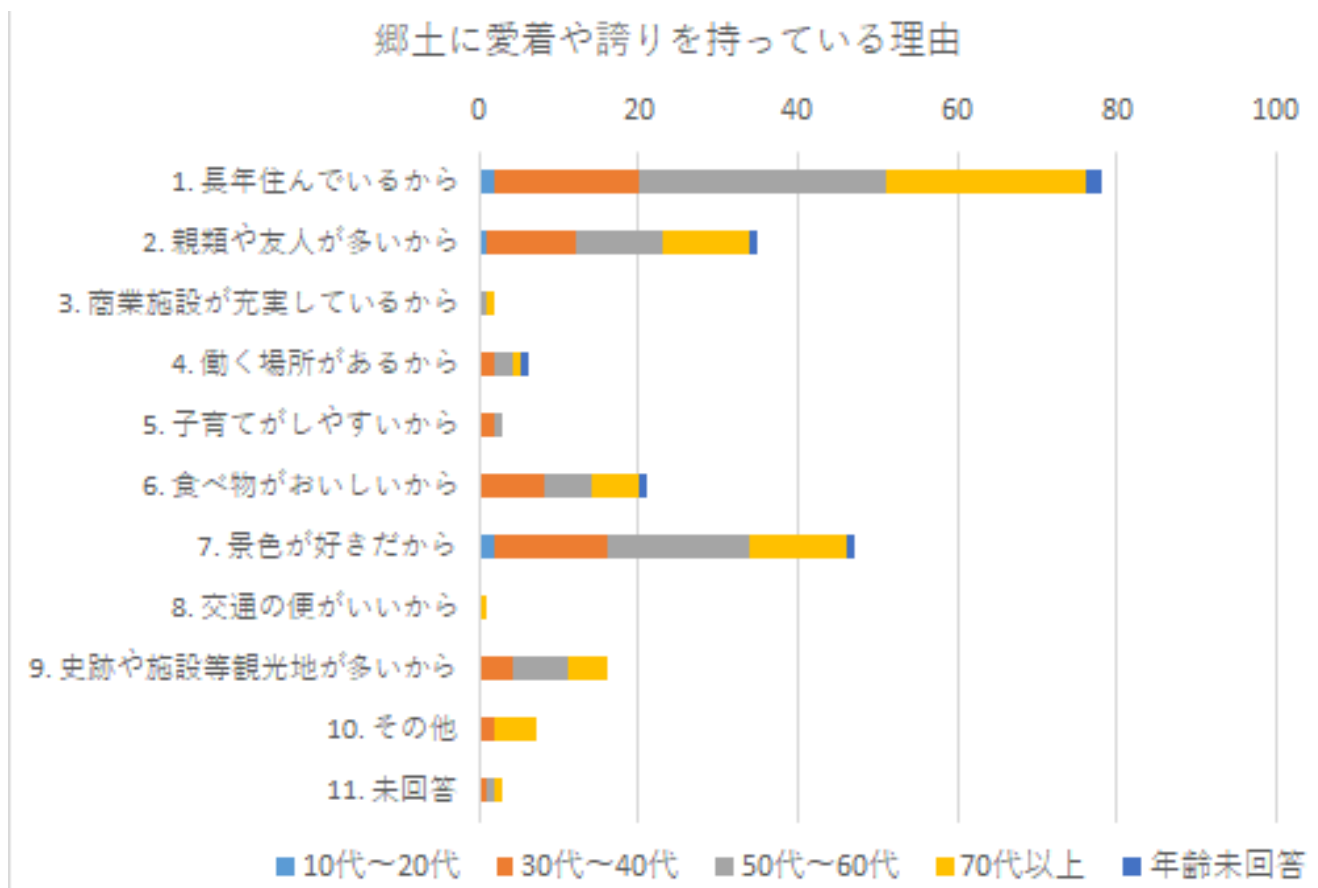
- ・ 雰囲気として落ち着けるから
- ・ 日蓮聖人の聖地だから
- ・ 日蓮の誕生地であること。日蓮の教えは、現在、192か国の人々に広まり、世界宗教と言える現状です。鴨川市の偉人のお一人であり、誇りです。
- ・ 夫のふるさと
- ・ 生まれた土地を知りたいから
- ・ 先祖代々の墓を守る為

郷土に愛着や誇りを持っている理由



郷土に愛着や誇りを持っている理由	10代～20代	30代～40代	50代～60代	70代以上	年齢未回答	合計
1. 長年住んでいるから	2	18	31	25	2	78
2. 親類や友人が多いから	1	11	11	11	1	35
3. 商業施設が充実しているから	0	0	1	1	0	2
4. 働く場所があるから	0	2	2	1	1	6
5. 子育てがしやすいから	0	2	1	0	0	3
6. 食べ物がおいしいから	0	8	6	6	1	21
7. 景色が好きだから	2	14	18	12	1	47
8. 交通の便がいいから	0	0	0	1	0	1
9. 史跡や施設等観光地が多いから	0	4	7	5	0	16
10. その他	0	2	0	5	0	7
11. 未回答	0	1	1	1	0	3

219



問8 あなたの好きなもの（歴史や文化）は何ですか。（複数回答可）

内容	件数
1 西徳寺	2
2 水田三喜男	6
3 牛洗い行事	4
4 仁右衛門島	41
5 入定塚	0
6 賽の河原	5
7 魚見塚	24
8 一戦場	29
9 枕状溶岩	5
10 江見根古屋城跡	1
11 房州鋸	3
12 塩屋子安観音堂	1
13 波切不動	5
14 吉浦の武蔵板碑	0
15 山生橋梁	2
16 九頭竜様	1
17 曾呂温泉	9
18 嶺岡牧馬捕場跡	13
19 鏡忍寺	27
20 波の伊八	37
21 長谷川昂	10
22 鈴木真砂女	6
23 和泉の三役	7
24 鴨川合同祭	23
25 大浦の担ぎ屋台巡行	18
26 厳島神社御開帳	18
27 嶺岡牧	20
28 鴨川富士（鹿野岡城跡）	11
29 鴨川松島	36
30 降神の槓	3
31 金山城跡	3
32 後広場古墳群	2
33 万祝	18
34 諏訪講・山王講の山車と人形	9
35 和泉公会堂	10
36 滝根入用水	1
37 金山疎水	5
38 来秀五輪塔群	4
39 野馬土手	6
40 伊勢エビ	41
41 さんが焼き	43
42 安国寺	5
43 長安寺	6
44 大山寺	25

内容	件数
45 吉保八幡神社	18
46 山の城跡	3
47 山口志道	2
48 古泉千櫓	8
49 吉保八幡のやぶさめ	33
50 北風原の羯鼓舞	5
51 大山千枚田	45
52 主基斎田	9
53 鴨川のバクチノキ群生地	0
54 大賀ハス	12
55 正木環斎屋敷跡	3
56 道種院	3
57 太巻き寿司	18
58 チッコカタメターノ	11
59 誕生寺	54
60 清澄寺	58
61 天津神明神社	34
62 日蓮	32
63 沼野玄昌	3
64 鯛供養弁天祭	5
65 小湊の歌題目	5
66 鯛の浦	27
67 式年鳥居木曳祭	16
68 東京大学千葉演習林	14
69 葛が崎城跡	2
70 ロシア人来航の地	2
71 清澄の大スギ	20
72 まるばちしゃの木	4
73 清澄のモリアオガエル	15
74 クサフグ産卵地	6
75 善覚寺の近世文書	1
76 ハバノリ	28
77 房州ひじき	46
78 キンメダイ	40
79 その他	17

※その他

1144

浜荻貴船神社祭礼 天津天王祭
 日蓮大聖人御生誕の地
 鴨川おけさ、小湊音頭、黒潮音頭、大山音頭
 天津須賀社の祭礼、城崎海岸、東条長狭の水田域
 日蓮聖人関係、天津小湊地区文化財
 天津地区祭礼、景勝地
 森永乳牛の誕生地、明治乳業の誕生地、磯貝安房練乳所
 跡、牧士家住宅、馬頭観音

名称	10代～20代	30代～40代	50代～60代	70代以上	年代未回答	合計
1. 西徳寺	1	1	0	0	0	2
2. 水田三喜男	0	1	2	2	1	6
3. 牛洗い行事	0	1	2	1	0	4
4. 仁右衛門島	0	11	18	12	0	41
5. 入定塚	0	0	0	0	0	0
6. 賽の河原	1	1	2	0	1	5
7. 魚見塚	2	9	8	5	0	24
8. 一戦場	2	13	8	5	1	29
9. 枕状溶岩	0	1	1	3	0	5
10. 江見根古屋城跡	0	0	1	0	0	1
11. 房州鋸	0	0	1	2	0	3
12. 塩屋子安観音堂	0	0	0	0	1	1
13. 波切不動	0	1	2	2	0	5
14. 吉浦の武蔵板碑	0	0	0	0	0	0
15. 山生橋梁	0	0	1	1	0	2
16. 九頭竜様	0	0	0	0	1	1
17. 曾呂温泉	0	2	4	3	0	9
18. 嶺岡牧馬捕場跡	0	1	3	8	1	13
19. 鏡忍寺	1	6	7	13	0	27
20. 波の伊八	1	10	12	14	0	37
21. 長谷川昂	1	2	1	6	0	10
22. 鈴木真砂女	0	0	2	4	0	6
23. 和泉の三役	0	0	2	5	0	7
24. 鴨川合同祭	2	8	9	4	0	23
25. 大浦の担ぎ屋台巡行	0	5	8	5	0	18
26. 厳島神社御開帳	0	5	5	8	0	18
27. 嶺岡牧	0	5	6	9	0	20
28. 鴨川富士（鹿野岡城跡）	0	1	6	4	0	11
29. 鴨川松島	0	8	16	12	0	36
30. 降神の槓	0	1	0	2	0	3
31. 金山城跡	0	0	1	2	0	3
32. 後広場古墳群	0	0	1	1	0	2
33. 万祝	0	5	7	6	0	18
34. 諏訪講・山王講の山車と人形	1	4	1	3	0	9
35. 和泉公会堂	0	1	2	7	0	10
36. 滝根入用水	0	0	0	1	0	1
37. 金山疎水	0	0	1	4	0	5
38. 来秀五輪塔群	0	0	2	2	0	4
39. 野間土手	0	1	2	3	0	6
40. 伊勢エビ	3	16	15	7	0	41
41. さんが焼き	1	16	16	10	0	43

名称	10代～20代	30代～40代	50代～60代	70代以上	年代未回答	合計
42. 安国寺	0	0	2	3	0	5
43. 長安寺	0	1	4	1	0	6
44. 大山寺	0	4	10	11	0	25
45. 吉保八幡神社	0	3	6	9	0	18
46. 山の城跡	0	0	3	0	0	3
47. 山口志道	0	0	1	1	0	2
48. 古泉千櫓	0	1	3	4	0	8
49. 吉保八幡のやぶさめ	0	9	9	15	0	33
50. 北風原の羯鼓舞	0	0	2	3	0	5
51. 大山千枚田	4	10	19	12	0	45
52. 主基斎田	0	0	3	6	0	9
53. 鴨川のバクチノキ群生地	0	0	0	0	0	0
54. 大賀ハス	0	4	5	3	0	12
55. 正木環斎屋敷跡	0	0	2	1	0	3
56. 道種院	0	0	3	0	0	3
57. 太巻き寿司	0	3	9	5	1	18
58. チッコカタメターノ	0	3	4	4	0	11
59. 誕生寺	3	13	24	14	0	54
60. 清澄寺	3	17	25	13	0	58
61. 天津神明神社	1	14	11	7	1	34
62. 日蓮	0	9	13	10	0	32
63. 沼野玄昌	0	0	2	1	0	3
64. 鯛供養弁天祭	0	3	0	2	0	5
65. 小湊の歌題目	0	3	1	1	0	5
66. 鯛の浦	0	8	11	8	0	27
67. 式年鳥居木曳祭	1	6	6	3	0	16
68. 東京大学千葉演習林	0	4	4	6	0	14
69. 葛が崎城跡	0	1	1	0	0	2
70. ロシア人来航の地	0	1	0	1	0	2
71. 清澄の大スギ	0	6	8	6	0	20
72. まるばちしゃの木	0	0	0	4	0	4
73. 清澄のモリアオガエル	1	4	4	6	0	15
74. クサフグ産卵地	2	1	2	1	0	6
75. 善覚寺の近世文書	0	0	1	0	0	1
76. ハバノリ	1	11	9	7	0	28
77. 房州ひじき	3	16	14	13	0	46
78. キンメダイ	2	16	15	7	0	40
79. その他	1	4	6	6	0	17

1144

問9 あなたがお住まいの地域又は身近な地域に残る風習や行事、石碑、風景などで、あなたしか知らない「自慢できる（とっておき）」ものを教えてください。（複数回答可）

鴨川は細道が多いが、そこから見える海は空と一体化しているみたいで綺麗
鴨川小学校校歌
天津の神輿には兄弟神輿があること 浜荻貴船神社の神輿の正式な新調時期(平成14年新調で広まっている)
海山が有り、自然豊かなところ、けど、進歩が無いところ、GU、ドンキ等等娯楽が何も無い、住みにくい市です。福祉、警察官が、信用出来ない市だと感じました。
道種院に残る真言密教の修法卷子状36巻、奥書がほぼ鎌倉時代の年号 同じく道種院の天井絵64枚は、狩野派と思われる狩野洞水という人の絵
文学碑（鏡忍寺他各地域にある歌碑） 上人塚 二ツ山（実入り） 酪農発祥の地
清澄山から眺望できる景色の素晴らしさ 山、海とあり大自然を感じられるので その観光資産を上手に活用出来ればと思います。
良い風景があったが開発で壊された
保台ダム周辺の景観
特にわからない。（ここに住んで5年なので……）
式年鳥居木曳祭。誕生寺。蓮華が潭。清澄寺。鏡忍寺。大山寺。大山千枚田。嶺岡の牧
大山不動の火渡り
鴨川富士 波の伊八
海沿いの景色。北部道路の桜。
自然が沢山ある。星が見える。海沿いの景色。北部道路の桜。
元名の鉱泉，庚申講
天津城跡（日澄寺），城崎海岸，須賀神社祭礼（天津）
大山寺正面階段から見る長狭平野から太平洋へ続く景色が大好きです。 お不動様の上にある高倉神社も長狭街道から江戸へ続く歴史をいろいろ思わせてくれます。
Cafe&Meal_MUJIみんなみの里の市民割引
太海の海岸でやぐらを組んだ茅を燃やす行事。今は見えなくなってしまったが、曾呂十字路から太海に向かった時に広がる海の景色。
馬頭観音、棚田、筒粥、大山寺の護摩
前原海岸
海は澄んでいてきれい
松ヶ鼻（天津実入）山頂のながめ、なぎなみ山（神明神社境内）
海に落ちそうな大きな満月はすばらしいです
実入から寄浦地区江戸時代に使用された歩道
郷土の伝説と史跡を探索上の細道が送られて来ました。和田町が出来た事や昔の牛の事、一部鴨川
松島
江見地区の10月行われる祭（手おどり）子供から老人まで

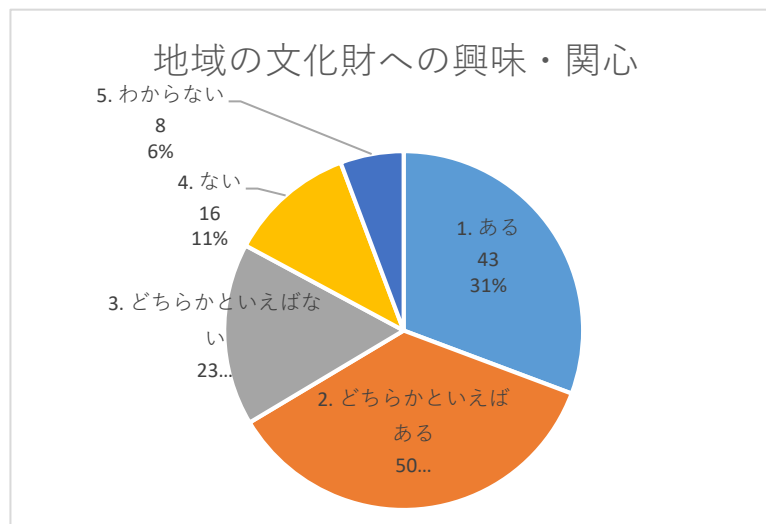
鏡忍寺の稚児祭文
私は天津の生まれですが、須賀神社の祭礼が好きで地元に戻って来ました。 祭りは、子供の頃より、今の方が好きになっています。 祭りにも楽しみ方があり、神社に納める前は、東から納める。そのルールは絶対で、時間で美しく納めたい青年及び氏子総代と、まだ納めたくないそれ以外の人たちのせめぎ合い。青年が力を誇示するように納める美しさ、最後に会場全てが一体となる手打ち式など楽しめるポイントがいくつもあるのに、深く関わった人しかわからないのが寂しいところです。 どこの祭りでも、ここは見ておきたいポイントがわからないから、自分のところの祭り以外はそれほど楽しめないんだと思います。 この祭りはこの時間にこのあたりが見どころとわかれば、もっと興味を持ってもらえると思います。 祭りもいくつかあって、重要な部分では緊張感を持って動いている人もいて、この瞬間にかけているきともいます。天津の祭りでいえば、神輿の屋根に上がって飾り付けする時、上に乗るのは人生で最後かもしれない緊張感があり、いつも見えていて格好いいとおもいます。 そんなマニアックな資料作ってもらえませんか。 地元の人間もわからないマニアックな資料があると、祭りが何倍も面白くなりますよね。どどこ神社はなんの神様を祀っている神社です。とかネットで調べられるものの説明とか、どうでもいい。 私のように祭りが好きで、地元に戻ろうとする者もいます。地元の人から祭りの魅力について語りたくなるような資料を作って欲しいです。 祭りってダラダラと長いのは、私もあまり好きではありません。見どころがわからない祭りに行きたいと思いませんか。ならこの時間のこの場所ではこんな見どころがありますと分かれば、それだけでも見たいから行こうかなと考えます。 長々と書きましたが、祭りを通して、郷土愛を育んで欲しいです。
海、山のながめ
自然に群生する花々を（花嫁街道や、東大演習林等々）もっとみんなに見てもらいたい
貴船神社の6月30日輪くぐりという行事、地域・家族の安心安全を願う事.
大日の伊八作品
散歩に最適なマリナ。 開発が進んで商業施設ができましたが、まだまだ残念な状態。せつかく人を呼ぶんであればもっとできる事がありそう。 前に咲いていたハマナスのきも枯れてしまいました。草木がおいしげり、猫が住み着いています。 景色はだいぶ変わってしまいました。綺麗な海が目の前にある鴨川が大好きです。 後世に残せる海岸を残して下さい。
曾呂の金物（現在はないと思うが）
お祭り
天津地区須賀神社のお宮から見る夜明けや夏の日の風景
大山千枚田からの田園風景はとても落ち着いて綺麗です。
灯籠流し
天津バイパスの歩道を散歩しながら見る夕陽と海岸
自分しか知らない、という訳では無さそうですが、ベイシアの近くの加茂川にかかる橋から見る夕日は、素晴らしいです。
天津地区祭礼
田原、地藏院脇に建つ馬頭観音群中にある牛大日如来の浮き彫りの石仏。曾呂の久保山は文字塔だが地藏院脇の牛大日如来は浮き彫りで、日本でも類例が無いと言われています。酪農の仏である大日如来と、馬の仏が「陽刻でセット」になっている唯一の例です。

1月10日、瀧口神社でどんど焼きを行い、神社で汁粉を食べる 1月11日、鏡開きで男の人が手羽先を食べる 2月3日、節分で、湯飲みに炒り豆と梅干しを入れて湯を注いで飲む 2月15日、ぼた餅ひやり。宿回りで大きなぼた餅重箱に四つ入れて持って行く
南小町の天王様で泥鰯素麺を作って食べる。南小町の町目に嶺岡牧の牧士であった前田家が建てた馬頭観音がある。房総練乳株式会社の四工場の一つで、明治乳業の誕生地となった主基工場跡や社員宿舍などがある。上小原から嶺岡牧へはいる入口に虎口状の大木戸がつくられ、木戸外側に馬頭観音が建てられている。
自由民権運動ゆかりの地 太平洋戦争戦跡と被災地 元禄地震災害地図 縄文・弥生遺跡 源頼朝の9/3の行動 八丁陣屋 西郷氏館跡 七鈴鏡
石堂寺多宝塔 後藤義光彫物〔寺庭の屋台（山車）〕 早川雪洲生誕地
各地区で1月のはじめ（中ごろ。22日）「綱つり」をやります。消防署近くの電柱にもその飾りがあります。（雨風でなくなります。）稲わらで、さんだわらやとっくり、わらじ・ぞうり（大きなものを片方ずつ）などを作り、地区のはしとはし2カ所にぶらさげます。 子安講・・・今は都合で休会中。コロナ前まで「子安様」を唱えていました。義母からいただいた半紙に書かれた「子安様（歌詞）」があります。（昭和55年にいただきました）

問10 地域の文化財への興味・関心があるか

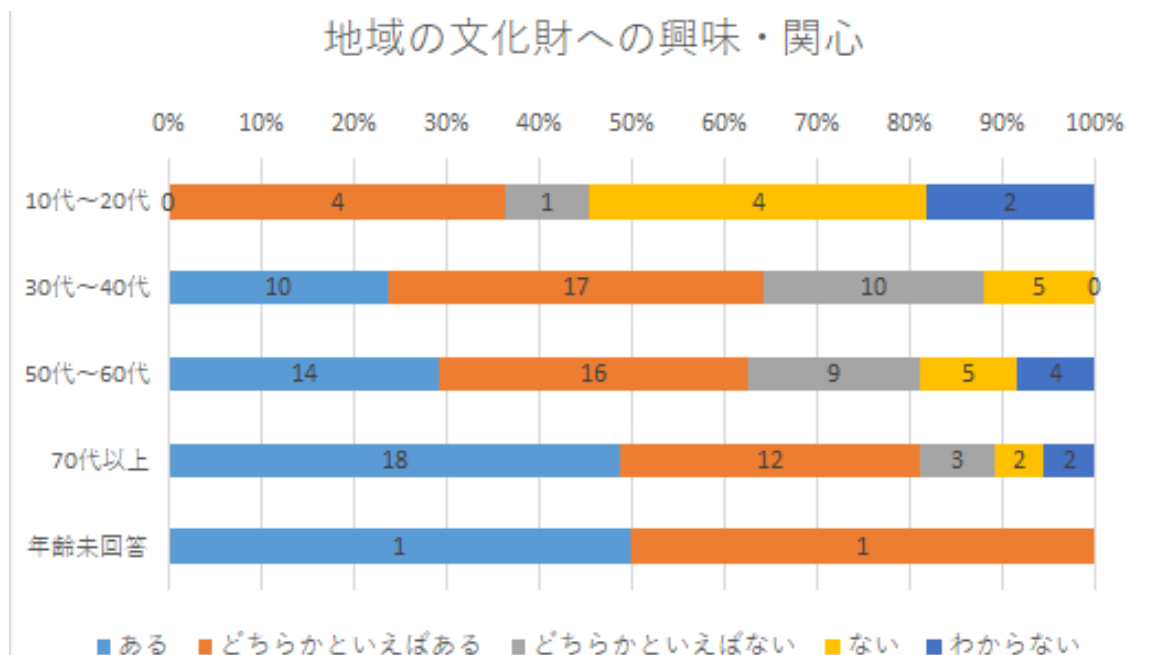
地域の文化財への興味・関心があるか	件数	割合
1. ある	43	30.7%
2. どちらかといえばある	50	35.7%
3. どちらかといえはない	23	16.4%
4. ない	16	11.4%
5. わからない	8	5.7%

140



地域の文化財への興味・関心があるか	10代～20代	30代～40代	50代～60代	70代以上	年齢未回答	合計
ある	0	10	14	18	1	43
どちらかといえばある	4	17	16	12	1	50
どちらかといえはない	1	10	9	3		23
ない	4	5	5	2		16
わからない	2	0	4	2		8

140



問11 どのような文化財に興味・関心があるか

興味・関心のある文化財	件数
1. 寺社や仏像など	56
2. 古い町並みなど	25
3. 城跡や古墳などの遺跡や出土品	23
4. 庭園や滝などの名勝や文化的な景観	30
5. 伝統的な祭りや古くから伝わる風習・行事	57
6. 昔の生活道具やその製造道具などの民具	20
7. 伝統工芸や技術	27
8. 動物・植物・地質・鉱物などの天然記念物	21
9. 歴史的な古文書や書籍など	19
10. 絵画や書・刀・陶磁器などの美術品	23
11. 民話や伝承	24
12. その他	6

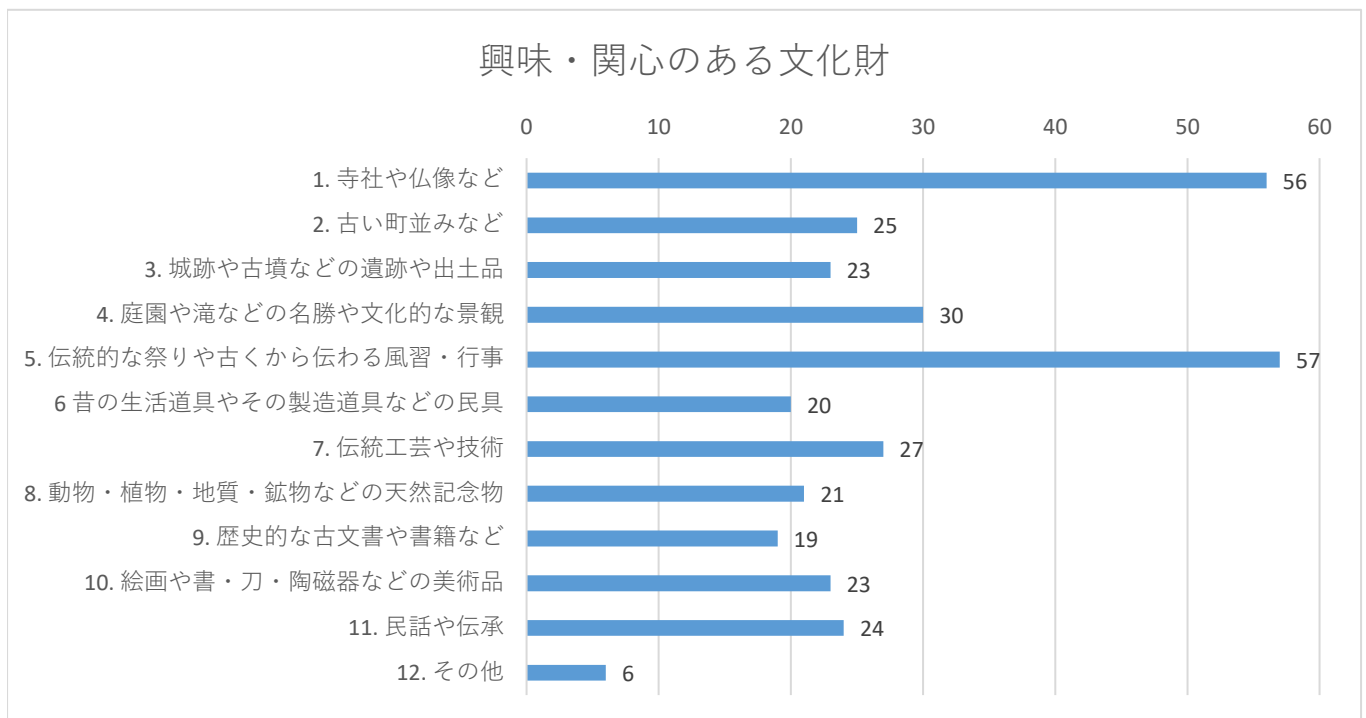
その他 331

無形文化財 各音頭、音楽、華道、茶道など

食文化関係や和歌など歌に係わる文化財

食文化、鴨川味の方舟品目、和歌、着物文化

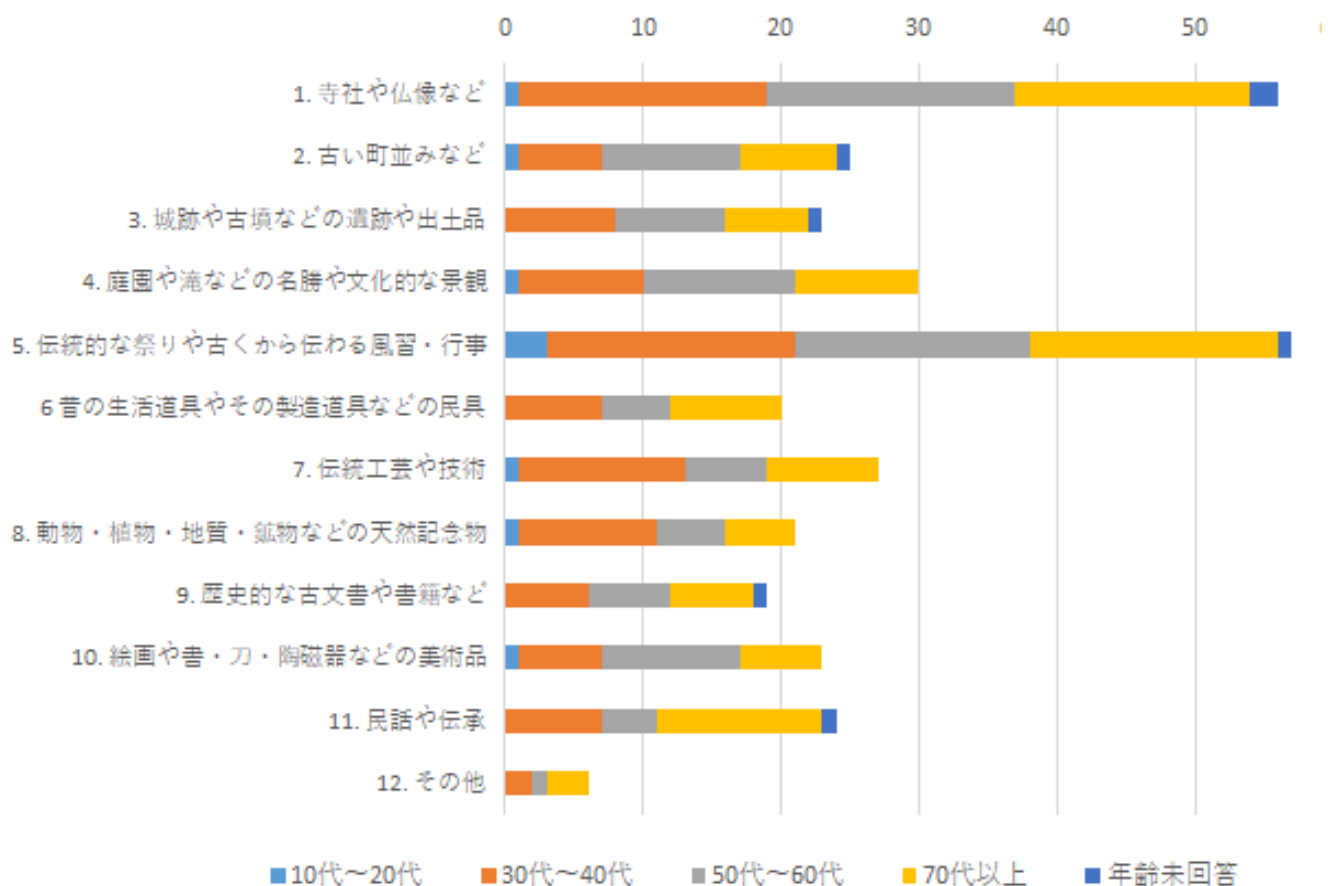
現在に続く生活文化



興味・関心のある文化財	10代～20代	30代～40代	50代～60代	70代以上	年齢未回答	合計
1. 寺社や仏像など	1	18	18	17	2	56
2. 古い町並みなど	1	6	10	7	1	25
3. 城跡や古墳などの遺跡や出土品	0	8	8	6	1	23
4. 庭園や滝などの名勝や文化的な景観	1	9	11	9	0	30
5. 伝統的な祭りや古くから伝わる風習・行事	3	18	17	18	1	57
6. 昔の生活道具やその製造道具などの民具	0	7	5	8	0	20
7. 伝統工芸や技術	1	12	6	8	0	27
8. 動物・植物・地質・鉱物などの天然記念物	1	10	5	5	0	21
9. 歴史的な古文書や書籍など	0	6	6	6	1	19
10. 絵画や書・刀・陶磁器などの美術品	1	6	10	6	0	23
11. 民話や伝承	0	7	4	12	1	24
12. その他	0	2	1	3	0	6

331

興味・関心のある文化財



問12 多くの方に歴史や文化財に興味・関心を持ってもらうためにはどうしたらよいか

多くの方に歴史や文化財に興味・関心を持ってもらうための取り組み	件数
1. 資料館等での展示会や講座の充実	37
2. 文化財をめぐるウォーキングやツアーの開催	49
3. 地域の歴史や文化財をわかりやすく紹介するコンテンツの充実	58
4. 資料館など展示施設の整備	28
5. 学校教育における歴史学習の充実や文化財の活用	65
6. 体験教室の開催	41
7. 季節などにあわせた情報の発信	55
8. その他	9
9. 未回答	13

その他 355

体験教育実習 田植え・稲刈り

SNS活用

SNSを利用

デジタル社会に合わせた配信，SNSなどの活用，今のZ世代にどう関心を持ってもらうか

小・中学校で文化財についての授業などを行うことで、若い世代からその親などの世代の方が興味・関心を持つ可能性があると思う。

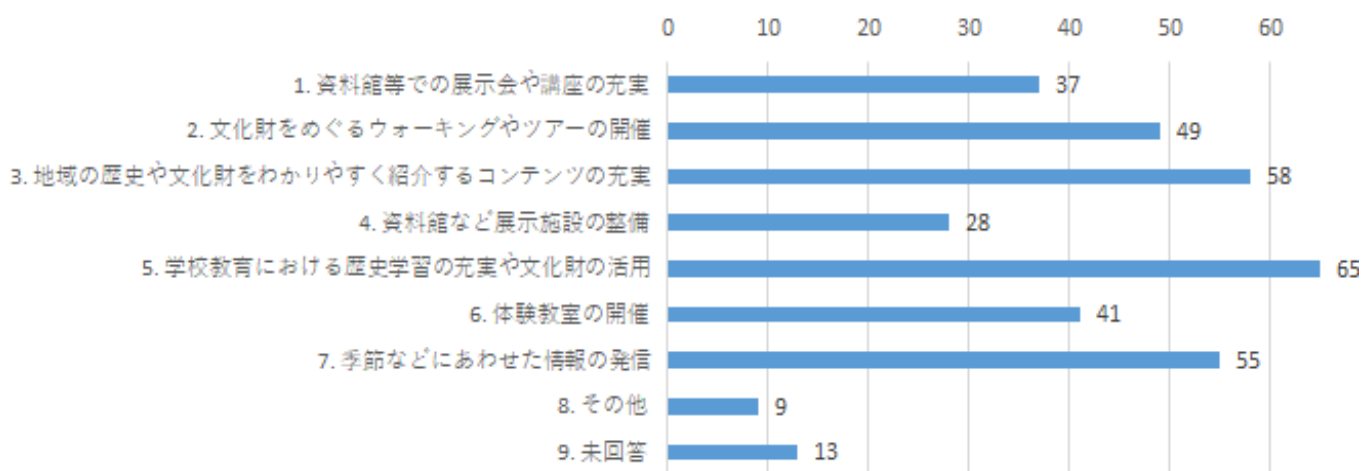
地域ごとにグランドデザインを作ること（地域ごとの文化財の魅力をまとめ、各地域の人々が自分の地域の魅力を理解することで、観光資源に活用出来る。）

もっと、市をアピールするために、他の施設、娯楽作る！

料理教室など暮らしの文化を支援する活動

文化財で起こっていたことを現地で体験できること。食生活などの生活文化で、鴨川らしい暮らしが続けられるようにする。

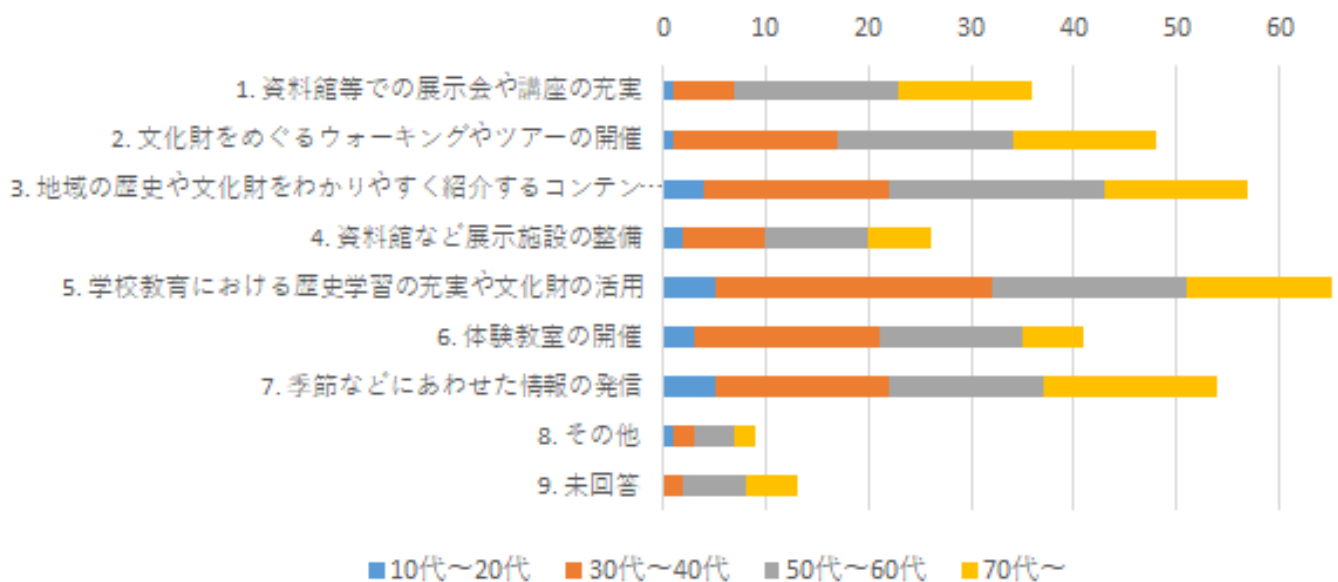
多くの方に歴史や文化財に興味・関心を持ってもらうための取り組み



多くの方に歴史や文化財に興味・関心を持ってもらうための取り組み	10代～20代	30代～40代	50代～60代	70代～	年齢未回答	合計
1. 資料館等での展示会や講座の充実	1	6	16	13	1	37
2. 文化財をめぐるウォーキングやツアーの開催	1	16	17	14	1	49
3. 地域の歴史や文化財をわかりやすく紹介するコンテンツの充実	4	18	21	14	1	58
4. 資料館など展示施設の整備	2	8	10	6	2	28
5. 学校教育における歴史学習の充実や文化財の活用	5	27	19	14	0	65
6. 体験教室の開催	3	18	14	6	0	41
7. 季節などにあわせた情報の発信	5	17	15	17	1	55
8. その他	1	2	4	2	0	9
9. 未回答	0	2	6	5	0	13

355

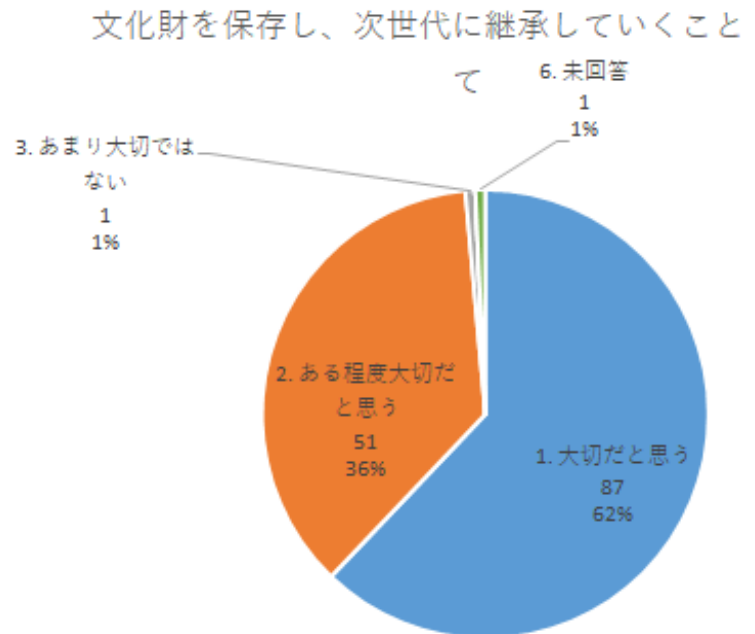
多くの方に文化財に興味・関心を持ってもらうための取り組み



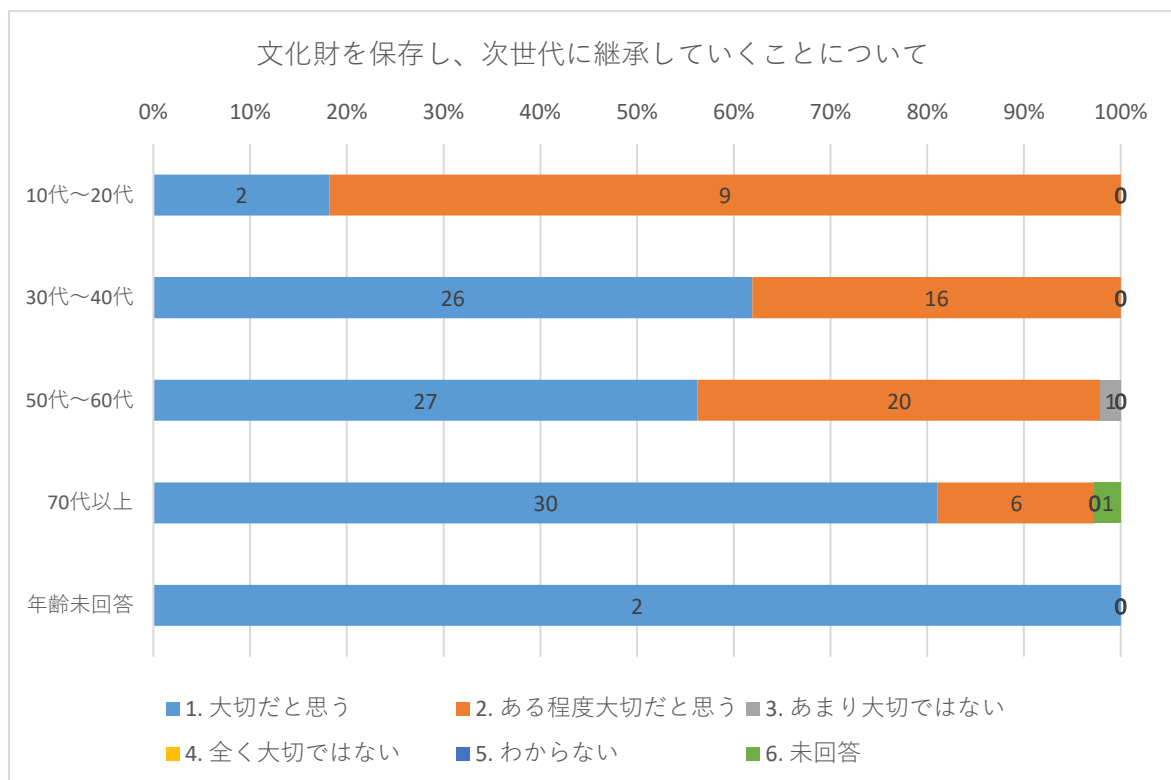
問13 文化財を保存し、次世代に継承していくことについてどう考えるか

文化財を保存し、次世代に継承していくこと	件数
1. 大切だと思う	87
2. ある程度大切だと思う	51
3. あまり大切ではない	1
4. 全く大切ではない	0
5. わからない	0
6. 未回答	1

140



文化財を保存し、次世代に継承していくこと	10代～20代	30代～40代	50代～60代	70代以上	年齢未回答
1. 大切だと思う	2	26	27	30	2
2. ある程度大切だと思う	9	16	20	6	0
3. あまり大切ではない	0	0	1	0	0
4. 全く大切ではない	0	0	0	0	0
5. わからない	0	0	0	0	0
6. 未回答	0	0	0	1	0



問14 文化財を保存し、次世代に継承していくことが大切だと思う理由

文化財を保存し、次世代に継承していくことが大切だと思う理由	件数
1. 歴史的事実を伝えるものであるため	81
2. 他にはない、かけがえのないものであるため	47
3. 過去から未来へと受け継いでいくべきものであるため	80
4. 地域の魅力であり、観光客の増加につながるため	48
5. 地域にとって古くから親しまれ、愛着があるため	44
6. 文化財等を通じて、子どもたち、お年寄りや外国の方など、新たな交流が生まれる可能性があるため	38
7. その他	7
8. 未回答	6

その他

351

その地域にとってのアイデンティティの1つとなり得るから。

文化財を通じて災害への備えなど学ぶべき事もあると思うため

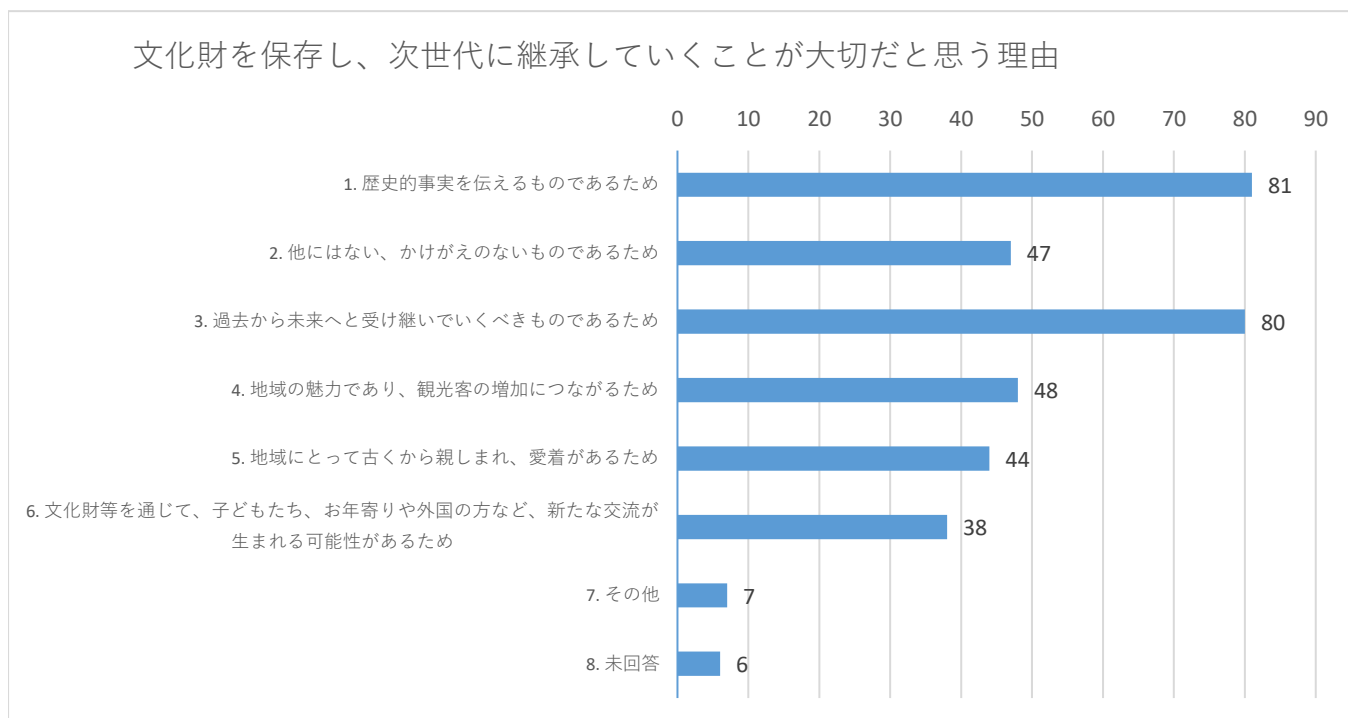
文化とは、人間として、平和と安寧と感謝、美の心等を育むものであるため。ふるさと愛を育む大きな要素となる。

日々の暮らしが豊かになる

地域活性化の重要な資源だから

郷土愛しいては国を愛する気持ちを育てる

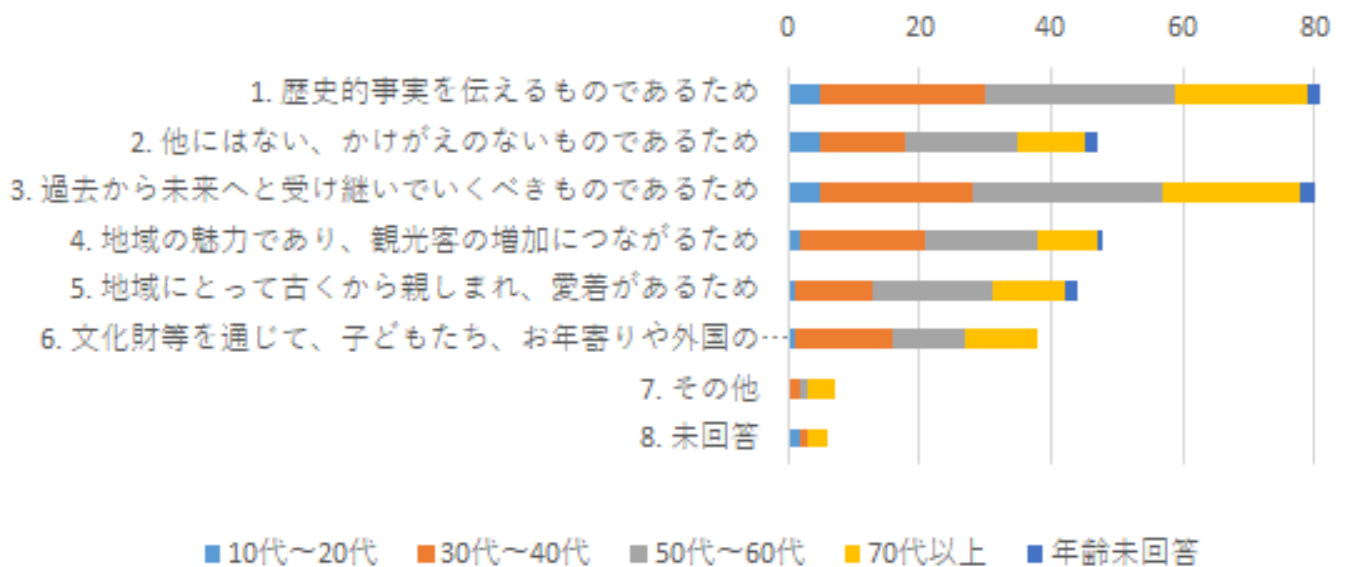
古きをたずねて 新しきを知るため



文化財を保存し、次世代に継承していくことが大切だと思う理由	10代～20代	30代～40代	50代～60代	70代以上	年齢未回答	合計
1. 歴史的事実を伝えるものであるため	5	25	29	20	2	81
2. 他にはない、かけがえのないものであるため	5	13	17	10	2	47
3. 過去から未来へと受け継いでいくべきものであるため	5	23	29	21	2	80
4. 地域の魅力であり、観光客の増加につながるため	2	19	17	9	1	48
5. 地域にとって古くから親しまれ、愛着があるため	1	12	18	11	2	44
6. 文化財等を通じて、子どもたち、お年寄りや外国の方など、新たな交流が生ま	1	15	11	11	0	38
7. その他	0	2	1	4	0	7
8. 未回答	2	1	0	3	0	6

351

文化財を保存し、次世代に継承していくことが大切だと思う理由



問15 市はどのような施策に取り組むべきだと考えるか

取り組むべき施策	件数
1. 歴史や文化財に親しむ機会の充実	63
2. 歴史や文化財の調査研究の推進	31
3. 文化財の管理や修繕などに対する支援	43
4. 伝統芸能や技術などの記録、保存	46
5. 学校教育における郷土史学習の充実や文化財の活用	63
6. 歴史や文化財に関する広報PRの充実	51
7. 博物館などの展示施設の整備	23
8. 歴史や文化財を活用したまちづくり、観光活用	46
9. その他	5
10. 未回答	10

その他

381

文化財は、地域活性化のために活用することが、継承につながっていくと考えるので、地域ごとの文化財利用計画をつくる。

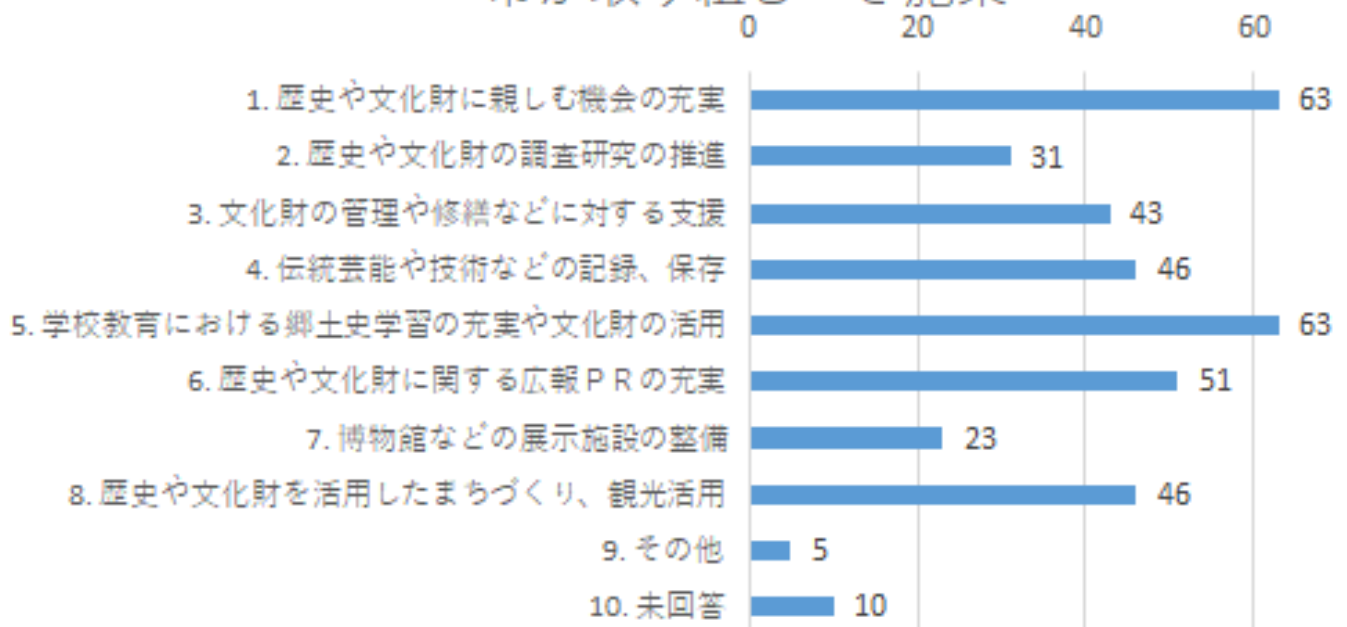
デジタルアーカイブなどネット時代に対応したコンテンツ

イベント参加できる

生活文化を含め文化財を保存活用する団体の育成支援

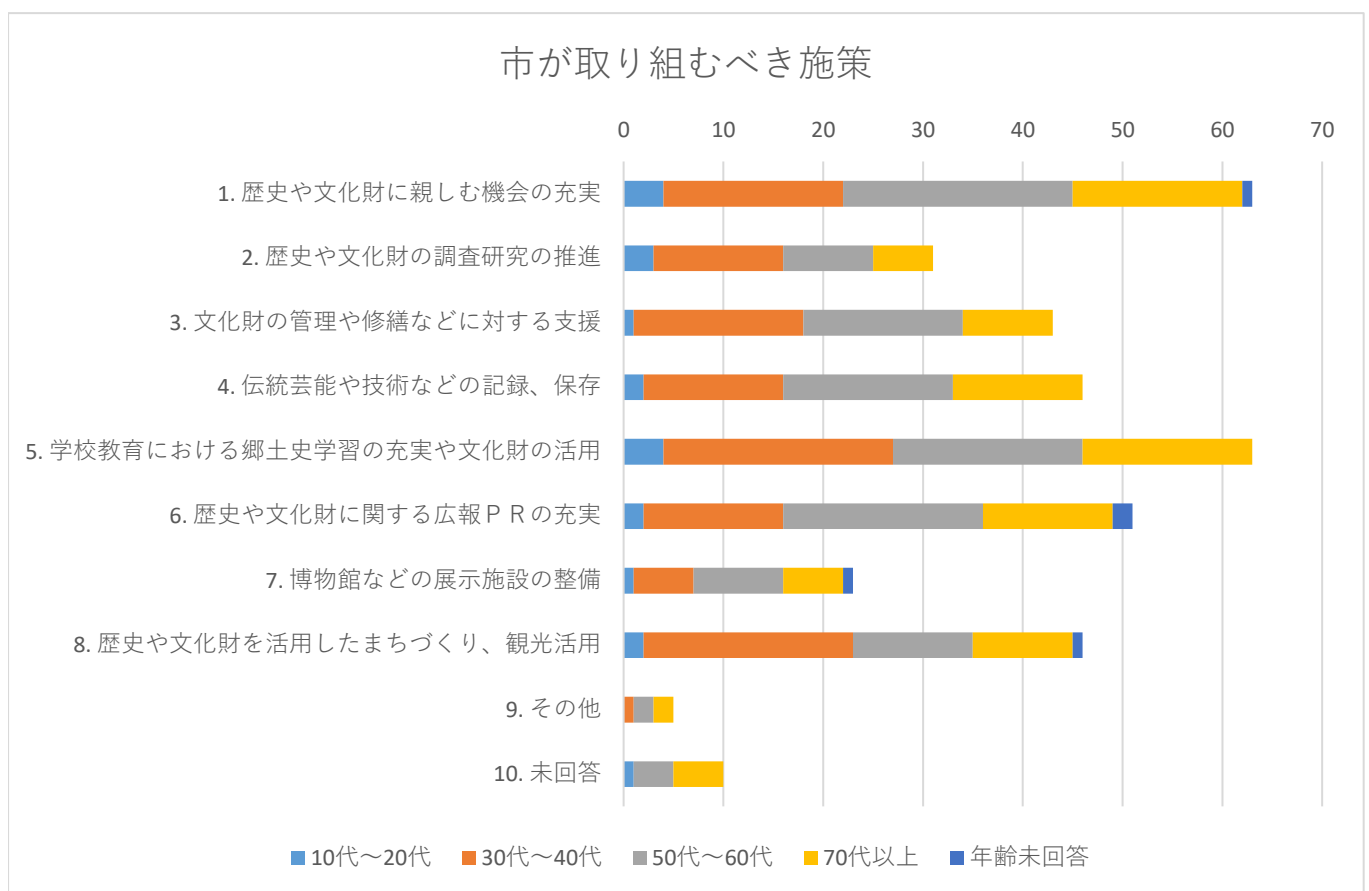
高齢女性の引き込み

市が取り組むべき施策



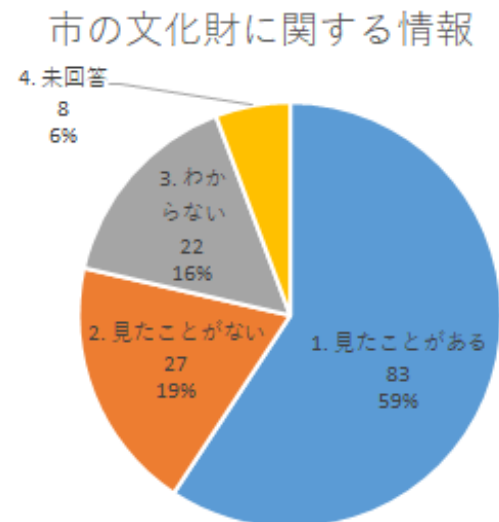
取り組むべき施策	10代～20代	30代～40代	50代～60代	70代以上	年齢未回答	合計
1. 歴史や文化財に親しむ機会の充実	4	18	23	17	1	63
2. 歴史や文化財の調査研究の推進	3	13	9	6	0	31
3. 文化財の管理や修繕などに対する支援	1	17	16	9	0	43
4. 伝統芸能や技術などの記録、保存	2	14	17	13	0	46
5. 学校教育における郷土史学習の充実や文化財の活用	4	23	19	17	0	63
6. 歴史や文化財に関する広報PRの充実	2	14	20	13	2	51
7. 博物館などの展示施設の整備	1	6	9	6	1	23
8. 歴史や文化財を活用したまちづくり、観光活用	2	21	12	10	1	46
9. その他	0	1	2	2	0	5
10. 未回答	1	0	4	5	0	10

381



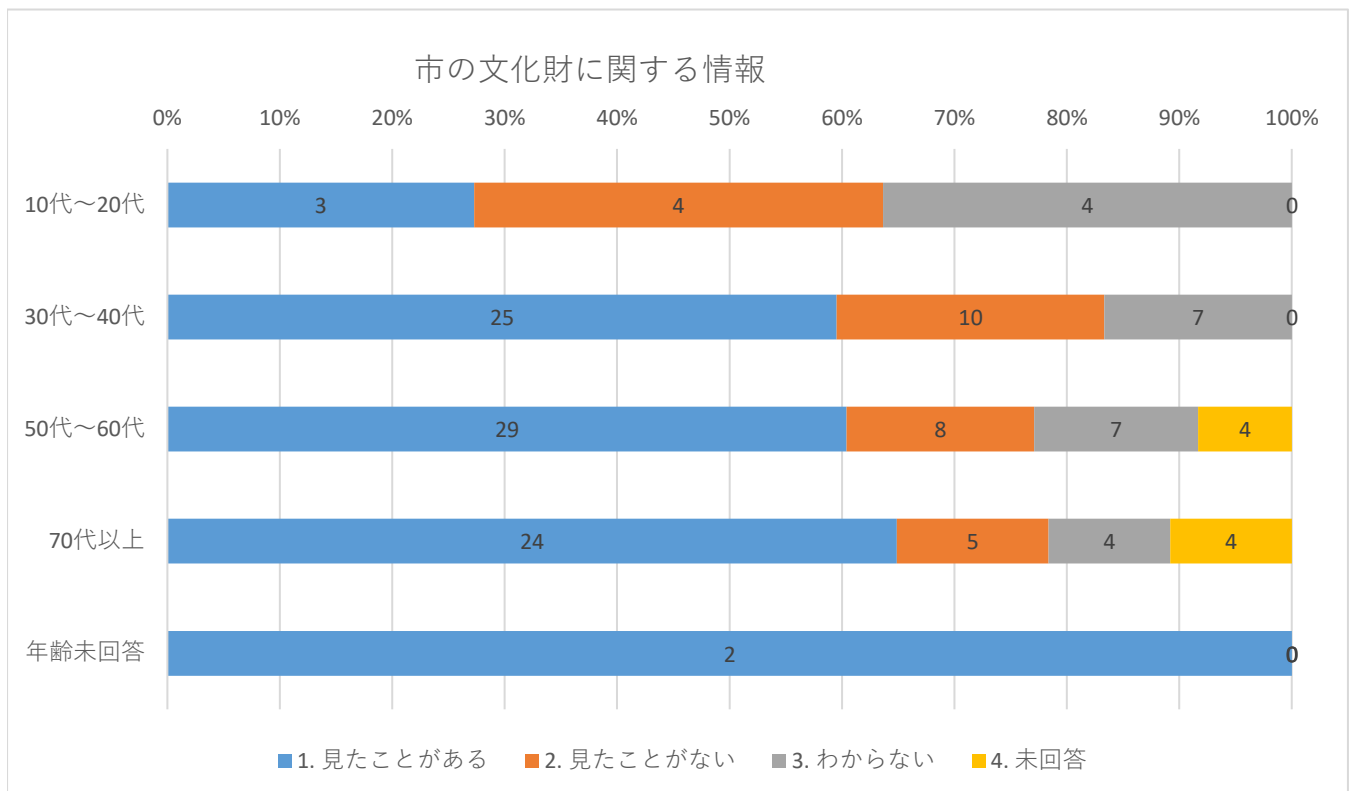
問16 市の文化財に関する情報を見たことがあるか

市の文化財に関する情報	件数	割合
1. 見たことがある	83	59.3%
2. 見たことがない	27	19.3%
3. わからない	22	15.7%
4. 未回答	8	5.7%
		140



市の文化財に関する情報	10代～20代	30代～40代	50代～60代	70代以上	年齢未回答	合計
1. 見たことがある	3	25	29	24	2	83
2. 見たことがない	4	10	8	5	0	27
3. わからない	4	7	7	4	0	22
4. 未回答	0	0	4	4	0	8

140



問17 市の文化財に関する情報の入手先

情報の入手先	件数
1. 広報かもがわ	66
2. 新聞・情報雑誌	30
3. フリーペーパー（Kamozineなど）	29
4. インターネット（ＨＰ、ブログなど）	14
5. チラシ・ポスター	24
6. ＳＮＳ（LINEやFacebook、Twitter など）	7
7. テレビ	17
8. 知人	9
9. 職場	1
10. ラジオ	2
11. 市役所、公民館など公共施設	24
12. ホテルなど宿泊施設	5
13. 道の駅、シーワールドなど観光施設	10
14. レストランなど飲食店	5
15. その他	3

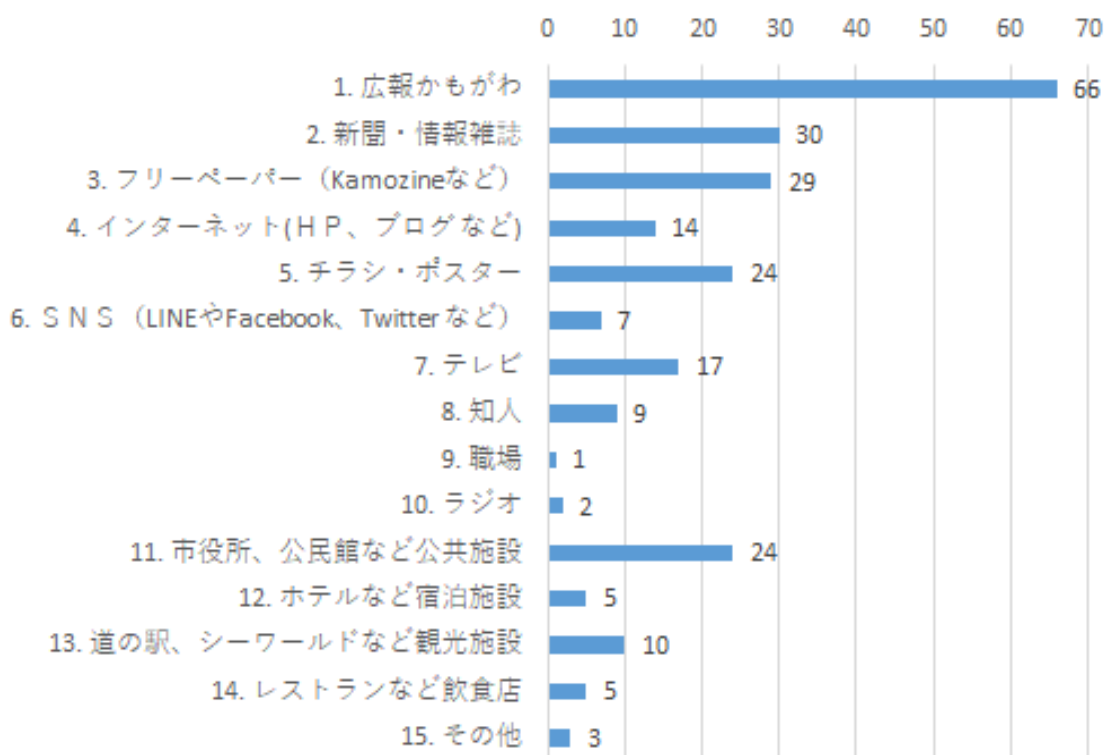
その他 246

鴨川市郷土資料研究会 嶺岡牧を知って考える会

書物

広報 南房総

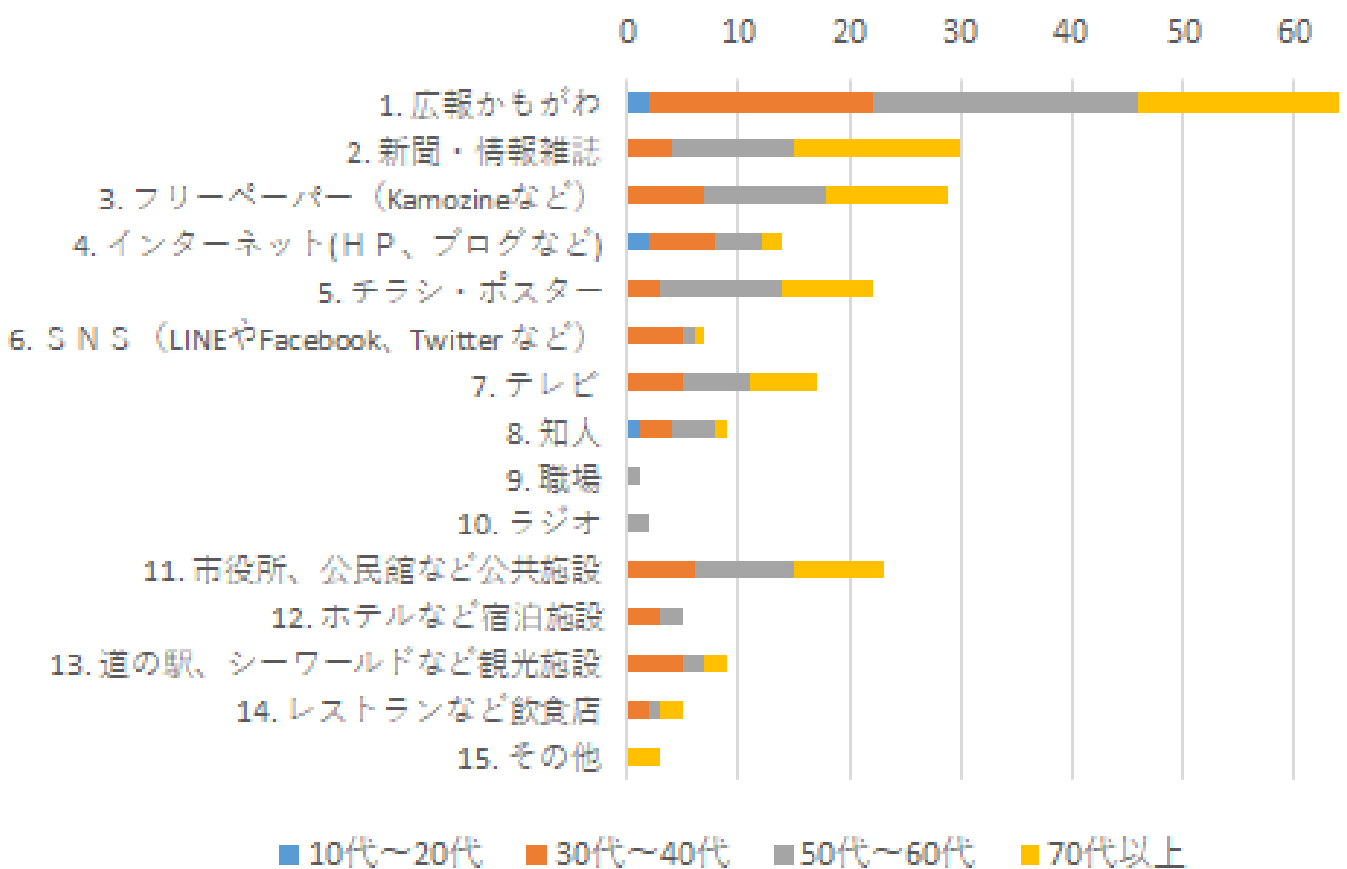
情報の入手先



情報の入手先	10代～20代	30代～40代	50代～60代	70代以上	年齢未回答	合計
1. 広報かもがわ	2	20	24	18	2	66
2. 新聞・情報雑誌	0	4	11	15	0	30
3. フリーペーパー（Kamozineなど）	0	7	11	11	0	29
4. インターネット（HP、ブログなど）	2	6	4	2	0	14
5. チラシ・ポスター	0	3	11	8	2	24
6. SNS（LINEやFacebook、Twitter など）	0	5	1	1	0	7
7. テレビ	0	5	6	6	0	17
8. 知人	1	3	4	1	0	9
9. 職場	0	0	1	0	0	1
10. ラジオ	0	0	2	0	0	2
11. 市役所、公民館など公共施設	0	6	9	8	1	24
12. ホテルなど宿泊施設	0	3	2	0	0	5
13. 道の駅、シーワールドなど観光施設	0	5	2	2	1	10
14. レストランなど飲食店	0	2	1	2	0	5
15. その他	0	0	0	3	0	3

246

情報の入手先



問18 あなたが協力できること

協力できること	件数
1. 文化財の清掃活動等への参加	29
2. 文化財を守るための寄付	17
3. 文化財の保存や整理、資料館における案内などのボランティア	11
4. 歴史や文化財に関する研究活動	14
5. 地域の祭りや伝統行事などへの参加	59
6. 歴史や文化財に関する情報発信	18
7. わからない	27
8. その他	5
9. 未回答	20

その他 200

田んぼ貸して稲刈り

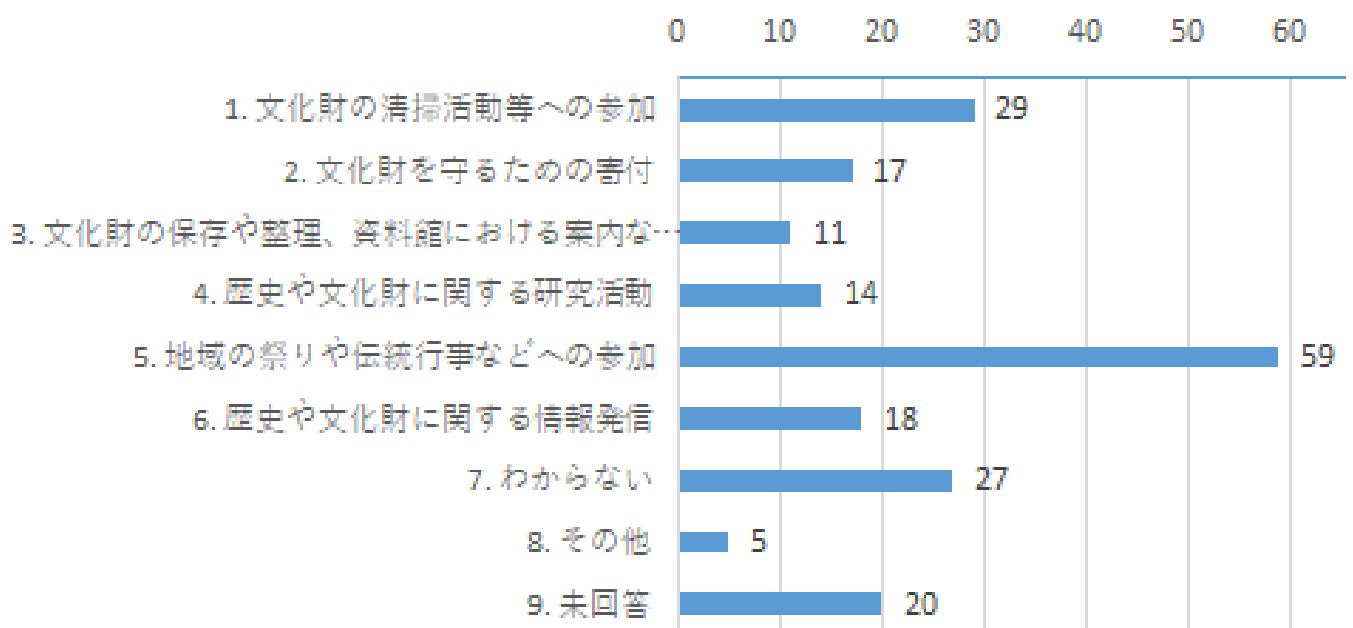
文化財の寄贈

地域活性化につなげるための協議に参加。文化財の利用計画作成等に協力したい。

文化財の保存利用マネジメント

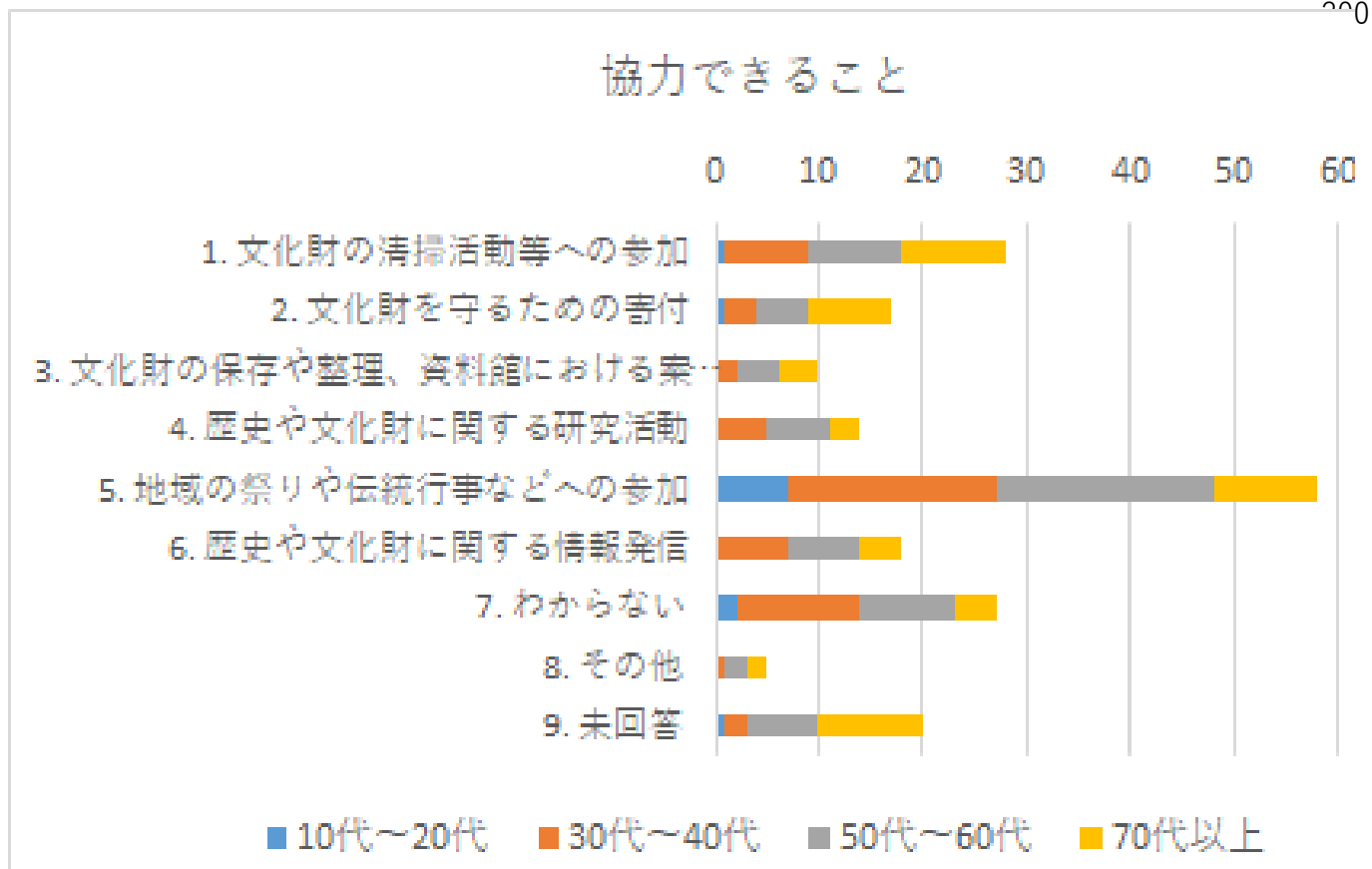
楽しいイベントがあれば参加という形でお友だちを誘って協力できます。

協力できること



協力できること	10代～20代	30代～40代	50代～60代	70代以上	年齢未回答	合計
1. 文化財の清掃活動等への参加	1	8	9	10	1	29
2. 文化財を守るための寄付	1	3	5	8	0	17
3. 文化財の保存や整理、資料館における案内などのボランティア	0	2	4	4	1	11
4. 歴史や文化財に関する研究活動	0	5	6	3	0	14
5. 地域の祭りや伝統行事などへの参加	7	20	21	10	1	59
6. 歴史や文化財に関する情報発信	0	7	7	4	0	18
7. わからない	2	12	9	4	0	27
8. その他	0	1	2	2	0	5
9. 未回答	1	2	7	10	0	20

20



問19 最後に、文化財の保存活用に関して要望やアイデアなどを自由にご入力ください。

サーファーとかのために海を整備するのではなく、月に1回の体験コーナーなどのイベントをする場所を設ける。
参加などできるイベントができると市民も関心をもつ。

「鴨川には大きな公園がない・・・」という声をよくきくので、一戦場公園の活性化！ 大変良い場所なのに、物足りなさを感じる。遊具を増やしたり、アドベンチャー的な（アスレチックやターザニア）事を委託して取り入れるのはいかがだろうか。とにかく一戦場は桜だけではもったいない！
郷土資料館が小さすぎる。場所もいまひとつわかりにくい。
「鴨川」はよい町なのにアピールしきれていない感じがする。

鴨川は忘れられた寒村、いるかのショウと亀田病院だけの村です。政治の貧困は今だに何もしない誰も知らない集落が少し有るだけなのです。
それで良いのですか、将来はあるのですか？

日蓮大聖人御生誕の地なのですね！それを、活用すべき、です。そして、古臭い考え方を捨てて、GU UNIQLO, ドンキ等等作るべきです。
土地は沢山あります。海があり山がある中に、GU, ドンキホーテも、中々お洒落な街です。なので、色んな物を作ると良いと思います。市が明るか、なりますよ。わらわら。

小学生、中学生に文化財に関する授業、見学会を毎年、行う。

今ある文化財を可能な限り高画質のデジタル情報として保存してほしい。それを制限することなく発信し、世界中の誰でも見ることが出来る状態にしてほしいと思います。物質的には火災、地震、津波、台風、劣化等で消えても、デジタル情報とし残せば半永久的に残せるのではないかと思います。

まず外より内。インナーブランディングの強化。

出かけた時に、ぶらりとたち寄れるように、1ヶ月、1週間の開催の情報があると、行けそうです。

人口の減少を抑えるために就職口の確保、移住を募集するなど、伝統行事を守るための人員確保が大事になると思われる、

鴨川市文化財保存活用地域計画の作成目的は、保存と活用を前に進めるためですね。その上で地域活性化プロジェクトといえると思います。鴨川市には、地域の宝物である文化財を、地域の皆様の豊かな生活に更につなげていくことと、観光資源として活用できるだけの【文化財が豊富】にあります。少子高齢化・人口減少の真っ只中での計画作成は鴨川市の生き残りをかけての計画作成であると言っても過言ではないと、思います。
市民の皆様のご意見等を参考に、地域ごとのグランドデザインと文化財の利用計画をつくる事を、提案いたします。

市指定文化財等の保護活動、保全保管に対して助成金なども今後は必要となってくるかと思う。

有形民俗文化財の諏訪・山王の山車と人形や無形民俗文化財の担ぎ屋台巡行は通年を通して見学できる施設があれば、認知度upや集客もできると思う。山車人形は常時展示してるが、山車や担ぎ屋台も文化財。倉庫にしまって年1回しか日の目を浴びないでは宝の持ち腐れ。館山・勝浦・大原など祭りをPRして大勢の観光客を呼んでいる。文化財を有する鴨川もPR次第で肩を並べることができるのに、勿体ない。鴨川合同祭のパンフレット・ポスター、SNSなど簡単にできる事からでもやるべき。市の安易な判断で御飯屋となる合同祭会場がなくなったので、責任をもって代替え地を用意する事も必ずやってください。

やはり、広報PRの充実は必要だと思います。

鴨川市の歴史、文化、素晴らしい景観を市の内外に発信してゆく組織を、鴨川市商工観光課、生涯学習課が音頭を取って、官民一体となって具体的な案を作成していく必要があると思います。

小・中学校で文化財について学ぶ機会を更に増やしたり、鴨川市全体やSNSを活用して鴨川市の文化財をアピールできれば興味・関心を持つ人が出てくるのではないかと思います。

小学校や中学校のときに文化財について学ぶ機会を充実させたり、市全体やSNSなどで興味・関心をもっていただけるように鴨川市の文化財を更にアピールすることがいいのではないかなと思いました。
昔の町並（パネル、写真）を道路沿線に掲示し多くの人に知ってもらう。
文化財の活用も保存も財源がなければできません。税金を納めてくださる企業や若い労働人口を増やす方策を行政にもっと考えて欲しい。
身近な小物に現代風にアレンジして取り入れると若い層にも受け入れられやすい？
資料館にわざわざ足を運ぶことはなかなか難しいので、普段の目に触れる場所に置いたり、イベントを文化体育館でおこなったり、子供達の学校教育に織り込むなどの工夫が必要と感じます。
市外から転入してきたのですが、自ら探しにいかない限り、触れる機会が全くないと感じます。私の地域は回覧板などもなく、自分の住んでいるところに何があるのか今回のアンケートで初めて知りました。市内の皆が行くであろうベシヤやイオンなどに協力してもらって、情報を発信する場を設けてもらってもいいのではと思います。
仁右衛門島は鴨川の宝だと思います。宣伝の仕方でものすごいパワースポットになると思っています。太海フラワーセンターのぼさぼさはがっかりです。
保存費のクラウドファンディング
文化財を活用するという考え方には賛成です。保存するだけではなく、日常的にかかわり、身近なものになれば自然と愛着がわき次世代にも残したいと思えるのではないのでしょうか。逆に活用できず淘汰されていくものがあるのも自然なことだと思います。
デジタル社会に合わせた配信、SNSなどの活用、今のZ世代にどう関心を持ってもらうか
学芸員や司書、研究者の待遇改善。小・中学校への出前授業。校外学習で博物館・美術館や史跡などへ行く。
発信がとにかく大切かと思います
文化財のある場所のスタンプラリーなど。名所のハガキなど景品に。 ゴミ袋の表紙に印刷して見もらう。 エコバック（写真入れて）を作る。
写真をたくさん撮って100年後の鴨川市民に見せる。
クラウドファンディングで資金調達。ふるさと納税での使い方選択肢に入れる。
学校の郊外活動で万祝いの体験をしたと聞いた事があります。伊八の作品を見たり、実際に見て体験する機会がもっと増えればいいと思います。 鴨川出身でない方々にもっと知ってもらいアピールしてもらえればと考えています。
西条生まれ、子供の頃、金山用水や伊八の事など、身近な事全く知りませんでした。情報発信がなかったのかな。 まず広報鴨川で、行事の事や、文化財の見学など1つひとつはじめたらと思います。
身近な環境の歴史に特に興味があるので 生まれ育った地域の歴史が見て分かる様な 写真集や映像など、そういうものが欲しい。 良き古き時代の文化財は興味深いため どの年代でも知る機会が欲しい。
現在文化財についての情報発信が郷土資料館での展示や公民館などにおいてあるだけの状態であり、興味のある方でなければ見向きもしないのが実情ではないか。 学校などの教育現場であれば、半ば強制的にはなるが触れ合う事はできるが、一般の方にももう少し触れ合う機会を設けることができないか？ 人の集まる商業施設にも空きスペースが多い為、そこに情報発信を行い人目につくようにしたらどうか。

情報の周知のしかた
広報鴨川などの紙面を使って 各地区の文化財などを数回にわけて紹介してほしいです。
日本酪農発祥の地で日本近代化の起点である世界遺産級の嶺岡牧と、森永、明治など日本主要製乳業の 誕生地跡や関連遺跡、鳶雀鎌、代の牛洗行事や大川面八雲神社・大山寺などでおこなってきた牛の安産 祈願としての習俗、稠密に建つ馬頭観音、嶺岡牧が育んだチッコカタメタノ食、古泉千樫の牛の歌な ど、複合的嶺岡牧文化総体をを生かした歴史体験型・連帯型ツーリズムが求められる。
物質でなく「こと」による文化財の活用、そして活用のための保存が必要だと思います。食具の保存・ 展示でなく、日常の食生活の中で美味しい地域食が食べ続けられるようにすることを推進することが大 切です。文化庁から100年フード事業の「近代の100年フード」認定を勧められたチッコカタメタノ 食など「鴨川味の方舟品目」での食事を、動画で公表するとともに、サーバーを準備し、地域食のアー カイブをつくれるようにすることが大切だと思います。チッコカタメタノ料理だけでも400料理を超え ています。
地域にある文化財の保存活用には、第一にそれを進める人材を育成するシステム(鴨川文化財マイス ターなど)を整備すること、第2に文化財の持続的利用を目的として行っている団体や生活文化を次世 代に伝える活動をしている団体のネットワークをつくること(鴨川文化財ネット)、第3に民間の保存 活用組織が展開するよう行政がサポートすること、が必要です。
幼、小、中に「ふるさと鴨川」を知る教育活動の導入を！
興味のある人で組織化し、定期的に研修を開き、知識、理解を深化する。
学校、特に子どもの学習(教育施設と関連させ)と体験、 さらに一般(とりわけ保護者を中心)をまきこむ取り組みが必要 お金をかける前にかかわりをもたせることが大切
次世代へ継承する為に、学校の子供達に教える機会を多くもつ。
まずは知ること。知ることによって身近かに感じ…大切に思うようになるのではないのでしょうか。 子どもたちへの働きかけも大切ですが…意外に高齢女性の知的好奇心も役に立つのではないでしょ うか。

鴨川市文化財保存活用地域計画

千葉県鴨川市

令和 年 月

鴨川市文化財保存活用地域計画 目次

第1章 序論

- 1 計画作成の背景と目的
- 2 計画期間
- 3 計画の位置付け
- 4 計画の評価と進行管理
- 5 計画の対象

第2章 鴨川市の概要

- 1 自然的・地理的環境
・位置、地形、地質、気候、水系、植物、動物
- 2 社会的環境
・人口、土地利用、交通、産業、観光、文化財関連施設

第3章 鴨川市の歴史文化

- 1 鴨川市の歴史文化の概要
・旧石器時代、縄文時代、弥生時代、古墳時代、古代、中世、近世、近代、現代
- 2 鴨川市の歴史文化の特徴

第4章 鴨川市の文化財の概要

- 1 文化財の指定等の状況
- 2 未指定文化財の概要

第5章 鴨川市の文化財調査

- 1 既存調査の状況
- 2 今後の調査方針

第6章 文化財の保存活用に関する基本方針及び取組

- 1 鴨川市における文化財の課題
- 2 将来像及び基本方針
- 3 取組
- 4 推進体制

第7章 文化財の防災及び防犯

- 1 近年の被災状況
- 2 防災及び防犯に関する考え方
- 3 防災及び防犯に関する方針と取組

第8章 文化財の一体的・総合的な保存と活用

- 1 関連文化財群
- 2 文化財保存活用区域

資料編

- 1 文化財リスト
(1) 指定文化財等一覧
(2) 未指定文化財等一覧
・有形文化財
・無形文化財
・記念物
・その他
- 2 市民アンケート

第1章

1 計画作成の背景と目的

鴨川市は、平成 17 年に旧鴨川市と旧天津小湊町の合併により誕生しました。現在の鴨川市の市域は、合併により、古代における長狭郡の範囲とほぼ一致するようになりました。

本市では、都市部のような大規模開発による文化財への影響は少なく限定的ですが、開発行為があった場合には、文化財の保存や環境調和などをしっかりと行っていく必要があります。

こうした中、本市には、先人たちのたゆまぬ努力により残され、地域に脈々と受け継がれてきた豊かな自然や長い歴史と文化があります。また、それらは地域の歴史や文化を理解するうえで欠くことのできない貴重な財産であり、市民の誇りでもあります。

日蓮聖人由緒寺院をはじめ、頼朝伝説、江戸幕府直轄の嶺岡牧、波の伊八の彫刻、黒潮の恵みがもたらす食文化、清澄・嶺岡山系と長狭平野がもたらす自然と文化など、我々の身近に多くの文化財が残されています。また、指定文化財だけではなく、地域の人々が大切だと考えている資料や行事などのいわゆる未指定文化財についても、守っていく必要があります。

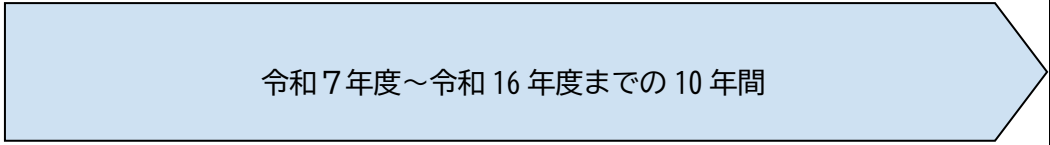
このような地域の歴史や文化を次世代に継承していくには、文化財関係者や行政だけでなく、市民一人ひとりの努力も必要です。そのためには、まず文化財への関心を高め、郷土の歴史や文化を身近に感じられるようし、文化財を支える担い手の育成を図ることも重要です。

文化財保存活用地域計画の作成は、地域の文化財は地域で守り、そして、文化財の活用により地域活性化が図られるよう、施策と事業（措置）を体系化し、計画的に実施されるようになることを目的とします。これにより、市民皆さんの豊かな心が育ち、誰もが愛着と誇りを持てるまちづくりを進めていくことを目指していきます。

2 計画期間

本計画の期間は、令和 7 年度から令和 16 年度までの 10 年間とします。

【鴨川市文化財保存活用地域計画の計画期間のイメージ】

	R7	R8	R9	R10	R11	R12	R13	R14	R15	R16
地域計画										

3 計画の位置付け

本計画は、文化財保護法第 183 条の 3 に基づき、千葉県文化財保存活用大綱を勘案して作成するもので、本市の上位計画である第 2 次鴨川市基本構想や鴨川市第 4 次 5 か年計

画、鴨川市教育振興計画（第3期）との整合を図ることとします。

また、新たな上位計画の策定や改定等がなされた場合は、本計画についても速やかに変更するなど必要な措置をとるものとします。

（1）第2次鴨川市基本構想（平成28年度～令和7年度）

鴨川市第4次5か年計画（令和3年度～令和7年度・後期基本計画）

	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7
基本構想	基本構想 平成28年度から令和7年度までの10年間									
基本計画	第3次5か年計画 平成28年度から令和2年度までの5年間					第4次5か年計画 令和3年度から令和7年度までの5年間				

将来都市像

活力あふれる健やか交流のまち鴨川
～みんなが集い 守り育む 安らぎのふるさと～

基本理念

- 1 「交流」のまちづくり
- 2 「元気」のまちづくり
- 3 「環境」のまちづくり
- 4 「協働」のまちづくり
- 5 「安心」のまちづくり

基本方針（施策の大綱）

基本方針1：快適で暮らしやすい交流拠点のまち

基本方針2：環境と調和した安心・安全のまち

基本方針3：活気あふれ人が集う産業のまち

基本方針4：ともに学び未来を育む教育文化のまち

4-1 学校教育の充実

4-2 生涯学習の充実

4-3 青少年の健全育成

4-4 文化の振興

4-5 スポーツの振興

4-6 国際交流・地域間交流の推進

基本方針5：一人ひとりがいきいきとした健康福祉のまち

基本方針6：みんなが主役となる協働・自立のまち

(2) 鴨川市教育振興計画（第3期 令和3年度～令和7年度）

教育振興の基本方針

ともに学び未来を育む教育文化のまち

～一人ひとり、みんなが輝く鴨川教育～

施策分野と基本目標

Ⅳ 文化振興

鴨川ならではの文化・芸術の振興と活用

施策と事業

Ⅳー1 文化・芸術の振興

(1) 文化・芸術の振興

Ⅳー2 文化施設の充実

(1) 文化活動の拠点施設の整備・活用

Ⅳー3 歴史・文化の保全と活用

(1) 指定文化財保護活動の支援と適切な保護の推進

(2) 市史の編さん、史・資料調査と保存・活用

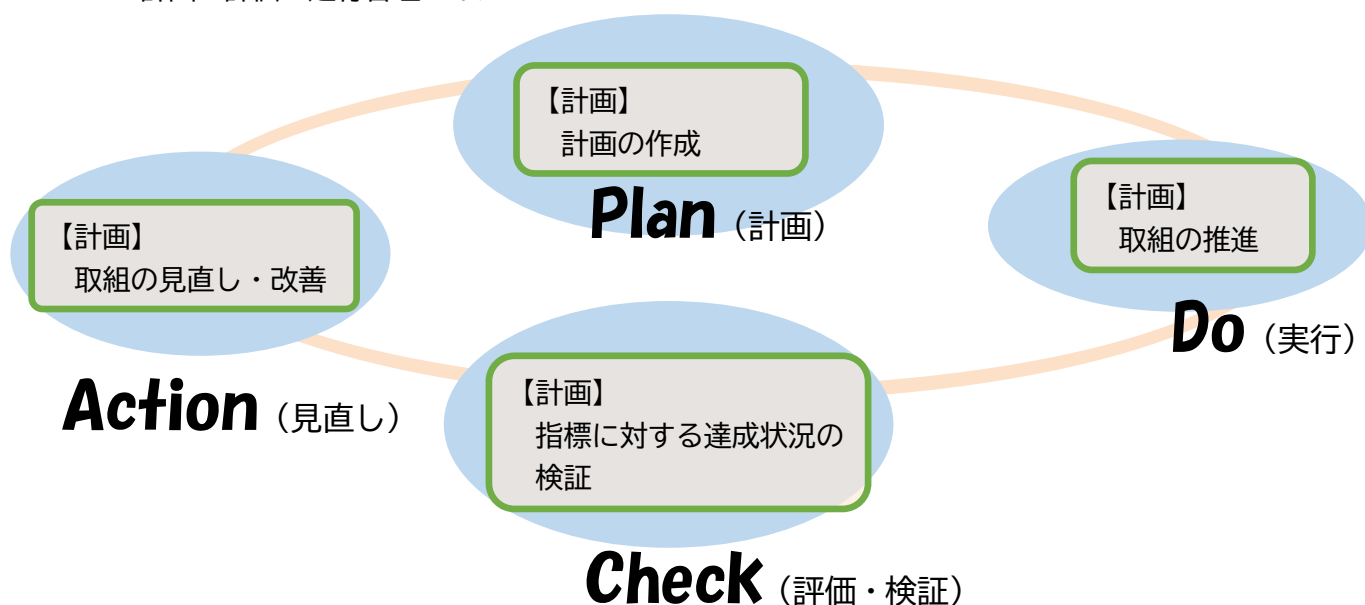
(3) 地域の歴史・文化資源の周知と有効活用

4 計画の評価と進行管理

本計画に位置付けた取組については、行政事業レビューの仕組み等を活用し、PDCA サイクルを循環させ、進行管理を行います。

計画に位置付け実施する取組に対して、計画期間の最終年度における評価指標を検証し、次期計画を作成する際に取組の見直し、改善を図ります。

■計画の評価と進行管理のイメージ



5 計画の対象

本計画において対象とする文化財は、文化財保護法に定義される有形文化財、無形文化財、民俗文化財、記念物、文化的景観、伝統的建造物群の6つの類型と、埋蔵文化財、文化財の伝統的な保存技術とします。

また、文化財保護法に規定によって指定されていない未指定の文化財、本市の歴史文化を受け継いでいくうえで欠くことのできない地域の伝統行事、民話、方言などの人々の活動や、眺望や鉱泉といった豊かな自然環境なども含むものとします。

鴨川市の文化財

文化財保護法の規定による文化財

- ・有形文化財
- ・民俗文化財
- ・文化的景観
- ・埋蔵文化財
- ・文化財の伝統的な保存技術
- ・無形文化財
- ・記念物
- ・伝統的建造物群



鴨川市独自の文化財

- ・郷土の偉人にまつわるエピソード
- ・寺院・神社
- ・石造物
- ・工芸
- ・民話
- ・記念物（森、滝、渚、山、島、木、池、岩、景勝地）
- ・眺望
- ・祭礼、伝統行事
- ・神仏像
- ・地名
- ・方言
- ・食文化

第2章 鴨川市の概要

1 自然的・地理的環境

本市は、房総半島の南東部、太平洋側に位置し、東は勝浦市、西は南房総市と鋸南町に、北は大多喜町、君津市と富津市に接しています。また、南は太平洋に面した全長約 24 kmの海岸線を有し、面積は 191.14 ㎢、千葉県全体の（5157.60 ㎢）の約 3.7%を占めています。黒潮の影響を受けて気候は温暖で、太平洋側では冬でも降雪・降霜がほとんどありません。

地形は主に、北側の清澄山系と南側の嶺岡山系、両山系に挟まれた長狭平野、曾呂・江見丘陵と海岸段丘などによって形成されています。清澄山系は河川により開析された樹枝状の小さな谷が形成され、急峻な丘陵地となっています。海岸線まで丘陵が迫っている天津小湊地区では、見た目にも険しい印象があります。

2 社会的環境

本市の人口は、令和 2 年の国勢調査では 32,166 人、令和 6 年 2 月現在の常住人口は 30,516 人となっています。

昭和 25 年の 48,571 人をピークとして一貫して減少し、急速に進む人口減少と少子高齢化の影響により地域コミュニティの担い手が不足しています。

国立社会保障・人口問題研究所による人口推計では、令和 27（2045）年には約 23,000 人に減少すると見込まれています。

本市の人口ビジョン（令和 3 年 3 月改訂）では、総合戦略の推進に伴う施策誘導により、移住・定住の促進と合計特殊出生率の上昇に取り組むことで、令和 27（2045）年の将来人口約 30,000 人の維持を展望しています。



出典：鴨川市人口ビジョン（令和 3 年 3 月改訂）

本市の主要な幹線道路は、海岸線に沿って国道 128 号が横断し、市西部を国道 410 号が縦断しています。また、本市と周辺市町を結ぶ幹線道路として、主要地方道が千葉鴨川線など 6 路線、一般県道 4 路線が整備されています。

鉄道は、JR 外房線と JR 内房線が海岸線に沿って国道 128 号とほぼ並行して運行され、5 つの鉄道駅を有しています。

路線バスは、東京都及び千葉市方面へのアクセス手段として高速バスが運行されるほか、周辺市町との地域間移動を担う公共交通として、安房鴨川駅を起点に木更津市、君津市、館山市、南房総市、富津市及び鋸南町に接続している。

また、地域内の移動を担う路線バスを補完するコミュニティバスや乗合タクシー（チョイソコかもがわ）が実証運行を行っています。

横渚地区には、鴨川市郷土資料館及び鴨川市文化財センターが設置されています。郷土資料館は昭和 57 年に、文化財センターは平成 13 年に開館しました。両施設は、隣接し連絡通路で結ばれていることから一体的に管理・運用されています。両施設は、いずれも鉄筋コンクリート造 2 階建て、郷土資料館の延床面積は 671.44 m²、うち展示室が 409.2 m²、文化財センターの延床面積は 872.11 m²、うち展示室が 156 m²、収蔵庫が 327.5 m²、学習室が 121.5 m²となっています。

郷土資料館では民俗資料や郷土の偉人の紹介、美術品の展示を、文化財センターでは埋蔵文化財や指定文化財などの展示を行っています。そのほか、教育普及事業として、歴史講座の開催や公民館・学校などへの出前講座により、本市の歴史・自然・文化の振興に努めています。

第 3 章 鴨川市の歴史文化

1 鴨川市の歴史文化の概要

（1）旧石器時代

安房地域における旧石器時代の遺跡は、南房総市の大房岬遺跡が知られており、ローム層中から黒曜石や嶺岡産の珪質頁岩などの剥片石器が出土しています。同遺跡が安房地域における旧石器時代唯一の遺跡となっています。

一方で、鴨川市内の嶺岡山系や清澄山系の丘陵部には、ローム層の露頭が確認できる場所があります。旧石器時代の遺跡はローム層から発見されるため、これまで市内では見つかっていない旧石器時代の遺跡が、新たに発見される可能性はあると考えています。

（2）縄文時代

縄文時代の遺跡のうち、発掘調査が行われたのは、東条地区遺跡群、田原地区の茱萸ノ木田遺跡、天津地区の砂田遺跡及び二タ間遺跡、小湊地区の貝戸遺跡です。東条地区遺跡群からは早期から中期にかけての土器や黒曜石の石器、砂岩の磨製石斧などが見つかっています。茱萸ノ木田遺跡からは早期から中期にかけての土器と黒曜石・チャートの石器が、砂田

遺跡は貝塚とされており、前期から中期にかけての土器と黒曜石の石器、磨石が見つかります。貝戸遺跡からは中期の土器が見つかります。いずれの遺跡からも住居跡などの遺構は確認できず、見つかった遺物は、包含層からの出土と表面採取によるものです。

（３）弥生時代

東条地区遺跡群からは、中期から後期にかけて規模の大きい集落跡が見つかります。待崎川の河岸段丘上に立地し、竪穴住居跡のほか、土坑や水田跡の一部が、遺物は土器のほかに稲作関連の道具である穂摘具や石斧が発掘されました。

土器の様相からみると、当地域は東京湾沿岸の文化圏に属しており、東海地方や三浦半島などとの交流により、新たな文化がもたらされました。また、稲作文化の伝播により生活が安定し、集落の大型化が進んだと考えられます。

（４）古墳時代

千葉県は全国的に見て古墳の多い地域といえますが、安房地域には古墳が少なく、その代わりわりとして内房地域には横穴遺跡が見られます。しかしながら、本市には古墳も横穴遺跡も数えるほどしかありません。

東条地区の砂丘上には、５基の円墳からなる広場古墳群があります。後広場１号墳は直径２１メートル、高さが２．７メートルで、千葉県では唯一となる刳抜式舟形石棺が出土しました。土砂採りの際に石棺が見つかったものです。石棺内からは人骨１体と金銅装大刀、直刀、鹿角装刀子、鉄鏃が副葬されていました。

近隣には後広場２号墳があり、広場古墳群で現在墳丘の残っている唯一の古墳となっています。

東条地区遺跡群からも古墳が見つかります。弥生時代から続く待崎川の河岸段丘上の集落から古墳の周溝が見つかり、土器や住居との関係から古墳時代初頭の古墳と考えています。古墳の周溝から見つかった土器には東海系のパレス壺やＳ字状口縁台付甕などの搬入品が見られ、弥生時代に引き続き、尾張・東海地方との交流がうかがわれます。

（５）古代

私たちの住む安房地方は、続日本紀に「元正天皇養老２年（７１８）５月上総国を割きて安房国を置く」と記されています。

長狭という地名は、古事記の神武天皇の条に「神八井耳命は長狭国造の祖」とあり、万葉集には長狭郡と朝夷郡出身の防人の歌二首が収められています。「古語拾遺」という古書に「その麻によろしき所、これを長麻と云う」と長狭の地名伝承を載せています。

市域は、神八井耳命やその子孫などの地方豪族が統治したと思われます。また、嶺岡山系からは、全国的にも珍しい七鈴鏡が出土し、奈良時代頃まで鈴鏡を使用する祭りが受け継がれていたと思われます。

大化の改新（645）以降は、中央から派遣される国司（律令制の地方官「現在の知事」）によって支配されました。東条地区からは、弥生時代や古墳・奈良時代の遺跡が数多く発見され、「東条」「西条」の地名があるように、条里の地割が行なわれたと考えられていましたが、明確な条里跡は確認できていません。

平安時代中期の記録に、長狭郡の郷として、壬生・日置・田原・酒井・伴部・加茂・丈部・置津の八郷が出てきますが、どの地域にあたるか詳しくはわかりません。

（6）中世

治承4年（1180）8月、石橋山の合戦で敗退した源頼朝は安房に逃れ、安房の武士団を集めて再起を図りました。当地域の代表的な在地領主には、長狭氏がいました。「吾妻鏡」治承4年9月3日の条によると、頼朝は、上総権介平広常のもとへ行こうとしたところ、長狭六郎常伴に襲撃されましたが、三浦義澄の機転と奮闘により、長狭六郎常伴は討ち取られ危機を脱しました。当市域には「一戦場」という地名があり、この出来事の場所であるとする伝承があります。仁右衛門島や旗かけ松など、頼朝に関する伝説が多く残っています。

長狭氏滅亡後は、三浦氏の支配が行われたと伝えます。長狭郡の東部には、源頼朝が伊勢神宮に寄進した、東条御厨と呼ばれる荘園が確認されています。

三浦氏の勢力が衰えた鎌倉中期ころから東条氏が勢力を伸ばしました。

この頃、日蓮が小湊に誕生し、清澄寺で学ぶとともに、新しい教えとして法華経を説きました。市内には、誕生寺、清澄寺を始めとして、日蓮に関する伝説や縁の場所が数多くあります。日蓮が小松原で東条景信に襲われた際には、天津を領有していたといわれる工藤吉隆が討ち死にしています。

室町時代には、大山地区を中心として柴原子郷が成立し、大山寺への寄進、北風原に安国寺が建立されるなど、公方足利氏の掌握下にあったと思われます。

室町時代も後期になると、安房に基盤をもった里見氏が、公方足利氏の権威を後ろ盾に在地武士を服属させ安房を統一し、旧勢力に代わって支配しました。当地域は、山の城や郡屋敷を根拠に、重臣とも同盟者ともいわれる正木氏の勢力下にありました。

その後、家督・権力争いから里見氏と正木氏の争いに発展し、天正8年（1580）、正木氏の支城だった市内太田学の金山城や浜荻の葛ヶ崎城が里見氏によって落城、里見氏支配に統一されます。

市域の村々の形ができあがったのは、この頃といわれています。

（7）近世

江戸時代に入り、10代・170年間にわたり安房に君臨した里見氏が、慶長19年（1614）に改易され、以降は代官領・大名領・旗本知行所が混在しました。

元和6年（1620）に西郷正員が、下総国生実（現千葉市）から安房の朝夷・長狭の2郡内に領地を移され、東条東村宝性寺に陣屋を構え、東条藩と称しました。西郷氏は、元禄5年

(1692)に下野国(栃木県)上田に転封となったため東条藩は廃藩となり、以後、東条の地に藩が置かれることはありませんでした。

東条藩が廃藩となった後、内浦や天津、磯村、天面など海岸線の村々は、岩槻藩領となり、明治維新をむかえました。

寛永～承応年間(1624～1654)ころには、関西漁民が出漁し始めたといわれ、鰯網操漁や八手網などさまざまな漁法が導入され、多数の紀州漁民が逗留し定住するようになりました。前原など沿岸の村々は繁栄しましたが、特に天津地区は「天津千軒」とうたわれました。

また、享保7年(1722)には、里見氏以来の馬の牧場である嶺岡牧が再興され、幕府の直轄地として経営されました。同牧には白牛も放牧され、酪(乳製品)の製造も行われました。明治以降は民間の牧場として経営が続けられましたが、経営難から大部分を売却して解散し、千葉県による牛の種畜場となって現在も存続しています。

(8) 近代

明治に入り、徳川宗家が駿遠に領地を与えられたことから、房州にも大名が移ってきました。明治元年(1868)9月に西尾忠篤が、遠江横須賀から3万5,000石で当地に入封し、花房藩と公称しました。仮藩庁は横渚村に設けられ、藩主の宿所は広場の鏡忍寺に置られました。同時期に駿河田中藩が南房総市白浜に移封され、長尾藩と称しました。

版籍奉還・廃藩置県を経て、明治4年(1871)11月の県の統廃合によって木更津県に組み入れられ、明治6年千葉県の成立によって、その管轄下に置られました。

その間、明治4年の明治天皇の大嘗祭では、市内北小町の田が主基斎田に選ばれています。

明治時代には多くの行政改革が行われました。明治22年(1889)の町村制の施行にともない、長狭郡62町村の合併がすすめられ、新たに太海村・曾呂村・大山村・吉尾村・由基村(大正4年10月主基村と改称)・田原村・鴨川町・西条村・東条村・天津町・湊村(昭和3年11月町制施行、小湊町と改称)の11町村となり、朝夷郡内の6村が合併して江見村(昭和3年11月町制施行)が成立しました。

昭和4年には房総線が全線開通し交通の便がよくなり、この地帯は農業・水産業の盛んなところとしてにぎわい、観光面でも大いに発展をしました。

(9) 現代

第2次世界大戦後、昭和28年(1953)9月1日に施行された町村合併促進法によって、昭和29年7月1日に鴨川・東条・西条・田原が合併して鴨川町を、昭和30年2月11日には天津・小湊が合併して天津小湊町を、また同年3月31日には大山・吉尾・主基が合併して長狭町を、太海・曾呂・江見が合併して江見町をそれぞれ設置しました。

鴨川町は農業と漁師町としてにぎわう一方、長狭全郷の経済の中心地として、物資の集散地・消費地として商業活動も活発化し、また自然美に富んだ房総の観光拠点基地として発展してきました。長狭町は嶺岡・清澄両山系の間に開けた細長い町で古くから酪農・果

樹園芸・米作と農業中心に栄え、また江見町は太平洋岸に面した温暖な気候に恵まれた町で花き栽培が盛んであり、花の江見として名高いところです。

この鴨川町・長狭町・江見町の3町は、昭和45年（1970）3月12日施行の三万市制特例法に基づき合併市制を施行し、昭和46年3月31日に鴨川市として発足しました。そして3次の基本構想並びに7次にわたる総合計画のもと、各種産業間の連携を図りながらハードおよびソフトの整備が進められてきました。

天津小湊町は、豊富な磯根資源や釣り漁業を中心とした漁業地として、また、清澄寺・誕生寺や鯛の浦などの日蓮聖人生誕の霊地や門前町としての特性を有し、風光明媚な観光の名所として広く知られています。

21世紀に入り、地方分権時代の到来を迎え、様々な課題に対応し、魅力的な地域づくりを進め、南房総の拠点都市としてより発展するため、鴨川市と天津小湊町が合併し、平成17年2月11日に新鴨川市が誕生、令和7年には市制施行20周年を迎えます。

2 鴨川市の歴史文化の特徴

本市の歴史文化は、清澄・嶺岡山系と両山系に挟まれた長狭平野、太平洋に面した長い海岸線といった自然環境によって育まれ、もたらされてきました。人々は気候風土に適応した生活を送ることで、この地域特有の歴史文化を形成し、代々守り受け継いできました。文字通り「長く狭い」平野を中心に暮らす人々が大地と黒潮の恵みを享受し、今に伝え語りかけてくれる歴史文化を、次のように6つの特徴にまとめることができます。

（1） 清澄・嶺岡山系と長狭平野がもたらす自然と文化

主な文化財

- ・大山千枚田
- ・主基斎田
- ・後広場古墳群
- ・曾呂温泉
- ・清澄の大スギ
- ・嶺岡層群
- ・長狭米

（2） 中世の痕跡が随所に

日蓮聖人と頼朝伝説

主な文化財

- ・誕生寺、清澄寺など日蓮聖人由緒寺院
- ・小松原の法難や上人塚などの霊跡
- ・仁右衛門島、一戦場などの頼朝伝説
- ・木造不動明王坐像（大山寺）

（3） 刻まれる嶺岡牧と波の伊八の記憶

主な文化財

- ・嶺岡牧、野馬土手、馬捕場跡
- ・牧士
- ・牛洗いの行事
- ・近代酪農発祥の地
- ・武志伊八郎信由の彫刻
- ・伊八の生家と工房跡

(4) 長狭地域の信仰と伝統

主な文化財

- ・大浦の担ぎ屋台巡行
- ・吉保八幡のやぶさめ
- ・和泉の三役
- ・式年鳥居木曳
- ・九頭竜様
- ・富士講

(5) 眼前に広がる太平洋の波濤

主な文化財

- ・鯛の浦タイ生息地
- ・天津地区や太海地区などの漁村集落
- ・綿糸のエビ網漁
- ・万祝い
- ・魚見塚
- ・枕状溶岩

(6) 黒潮の恵みがもたらす食文化

主な文化財

- ・房州ひじき
- ・さんが焼
- ・なめろう
- ・雑煮のハバノリ
- ・チッコカタメターノ
- ・釣りキンメ

第4章 鴨川市の文化財の概要

1 文化財の指定等の状況

鴨川市内の指定文化財及び登録文化財は、令和6年2月29日現在、国指定2件、県指定26件、市指定50件、国登録文化財8件の86件となります。

市における文化財の指定は、鴨川市文化財の保護に関する条例の規定に基づき、鴨川市教育委員会が行います。

指定に当たっては、文化財調査等で確認された文化財のうち特に重要なものに関して所有者の同意を得た場合、鴨川市文化財保護審議会への文化財の指定についての諮問を行い、その答申に基づいて鴨川市教育委員会が指定を告示します。

鴨川市の指定文化財等の状況（令和6年2月29日現在）

類型		国指定	県指定	市指定	国登録	県登録	合計
有形文化財	建造物		6	8	8		22
	美術			1			1
				22			27
	工芸		1				1
	書跡・典籍等		3	3			6

	品	考古資料		1				1
		歴史資料						
無形文化財								
民俗文化財	有形の民俗文化財				3			3
	無形の民俗文化財			2	3			5
記念物	遺跡			1	2			3
	名勝地			2				2
	動物・植物・地質鉱物		2	5	8			15
文化的景観								
伝統的建造物群								
合計			2	26	50	8		86

2 未指定文化財の概要

第5章 鴨川市の文化財調査

1 既存調査の状況

本市においてこれまで実施されている文化財調査の状況は次のとおりです。

【教育委員会の文化財調査】

市教育委員会が行なった調査は、当時の鴨川図書館が、昭和39年(1964)から行なった古文書調査が最初で、読書会の会報である『鴨川』の第3号に、旧田原村・旧東条村・旧広場村・旧主基村の古文書が収録されています。調査は市民の協力を経て遺跡や伝承など幅広く行なわれ、その結果は、投稿という形で、昭和55年(1980)の『鴨川風土記』創刊号、平成4年(1992)の『鴨川風土記』第2号として編冊され、現在では失われた貴重な記録となっています。また、史料目録として『鴨川風土記』創刊号と同時に、『竹沢家史料目録』が刊行されています。

昭和57年(1982)に鴨川市郷土資料館が開館し、展示・公開が実施されるとともに、市内における様々な分野の情報収集が始まりました。ただし、体系的な悉皆調査ではなく、展覧会などのテーマの研究、又は市民からの情報による調査に留まっています。

現在は図書館で実施されていた調査を受け継ぐとともに、市史編さん委員会の事業についても、鴨川市郷土資料館を拠点として調査、情報収集及び研究を続けています。

【市史編さん】

市史編さん事業に伴う歴史文化や文化財、寺社等に関する情報や資料の収集は、旧鴨川市と旧天津小湊町でそれぞれ実施され、その成果を観光部として発刊し、広く市民に周知を図っています。

旧鴨川市では、市制施行20周年の事業の一端として昭和61年(1986)に市史編さん計画

を企画。翌年、市史編さん委員会を設置し、平成3年(1991)の『鴨川市史 史料編(一)』を皮切りに、以降、平成16年(2004)の『曾呂のあゆみ』まで計15冊を刊行しました。

旧天津小湊町においては、昭和60年(1985)に町史編さん委員会を設置し、町史編さんを開始。昭和61年(1986)の『ロシア人来航の記録』を最初として、平成16年(2004)の『天津小湊の神仏調査報告書』まで、史料編や通史編など計11冊を刊行しました。

平成17年(2005)の市町村合併後も、旧町村ごとの歴史をまとめた、通称「あゆみシリーズ」の編さんと発刊を続け、令和3年度にシリーズ最後となる『主基のあゆみ改訂版』を発刊しました。

市史編さん事業については、令和6年度に基本方針を決定し、史料調査と発刊を継続していく方針です。

また、編さん事業で収集した関係資料は、原本・複写物含め37,906点に及び、そのすべてが市郷土資料館に保管しています。

【千葉県の把握調査】

県教育委員会は、これまで文化財の類型ごとに県内の実態調査を実施し、表〇の報告書を刊行しています。また、本市をフィールドとした調査研究は、千葉県史料研究財団が県史編纂事業の一環で県内の古文書調査を、千葉県自然保護課や千葉県立中央博物館などが民俗や地質、地形などを行っています。

【研究機関等の調査】

本市内には、亀田医療大学のキャンパスをはじめ、東京大学大学院附属千葉演習林、千葉大学海洋バイオシステム研究センター、早稲田大学・東洋大学などのセミナーハウス設置されており、様々な研究機関や大学等が市内で調査研究を行っています。その他、鴨川市郷土史研究会や一般社団法人波の伊八まちづくり塾など市民による調査研究団体も活動しています。

価値を顕在化するため、これらへの調査協力や調査成果の共有を図り、情報の収集、内容の把握に活かしています。

(2) 分野別の調査の内容

◆有形文化財

①建造物

・寺社

寺社建築については、昭和52年度(1977)に国が主導し市町村の協力を得て県教育委員会が「近世社寺建築調査」を実施しました。市町村の協力によりまず建物の所在と特徴を把握する調査が行なわれました。旧鴨川市内では51寺社の調査票が保管されていますが、未調査の寺社もありました。旧天津小湊町分を含め、鴨川市内では31寺社46棟が報告され

ています。

この結果を受け、実測、構造形式や装飾の調査、沿革資料の確認等の詳細な調査を行う必要がある寺社が選定されて第二次調査が実施されました。

また、その後も、市教育委員会により文化財指定や企画展に伴う調査などを実施しています。

・古民家、産業関連施設等

近代建造物の調査は、県教育委員会が平成3年度(1991)から平成4年度(1992)の2か年で明治期以降に建設された公共建造物や商工業施設等の近代建造物の基礎資料を得るために「千葉県近代建造物実態調査」を、平成7年度(1995)から平成10年度(1998)の4か年で幕末から昭和20年までの建造物を対象に「千葉県産業・交通遺跡実態調査」を行いました。

平成14年度(2001)から平成15年度(2002)に「千葉県近代和風建築総合調査」が行われ、明治～昭和20年までに建設された伝統的様式や技法で建てられた木造物(一部洋風の様式や技法が用いられているものを含む)を対象としています。

その他の把握調査は行なわれておらず、現在把握している情報は、文化財指定や展覧会などの取組みの中で把握したものです。

・石造物

旧天津小湊地域においては、平成8年(1996)から4か年にわたって、旧町によって石造物の悉皆調査が行なわれ、非公開を含め703件を確認しました。旧鴨川市地域においては、平成15年(2003)から6年間にわたって、鴨川市郷土史研究会が調査を実施し、およそ3,000件を把握しています。

②絵画・工芸品・

市が所蔵するもの、文化財などの指定がされているもの以外は、市内の情報を把握できていません。

③彫刻

神仏像については、旧天津小湊町地域においては、平成9年度から平成14年度までの6か年にわたり悉皆調査が実施されました。それに先立ち、誕生寺においては独自の把握調査が行なわれています。旧鴨川市地域においては、文化財指定を除き、市内の情報を把握できていません。

寺社・山車屋台彫刻については、市内外の研究者及び市郷土資料館の展覧会開催に伴う調査研究が長年にわたり行なわれ、情報共有と同時に調査結果に伴う出版物が刊行されるなど把握がされています。

④古文書

古文書調査は、市史編さん事業として旧市町教育委員会においてそれぞれ行なわれ、合併後も市史編さん委員会を継続し、千葉県文書館などと協力して、現在も続けられています。

⑤考古資料

東条地区遺跡群などの発掘調査の成果から把握しています。

◆無形文化財

万祝
伝統工芸品

◆民俗文化財

①無形の民俗文化財

・風習

平成6(1994)年度に千葉県の県史編纂事業の一環で「千葉県地域民俗調査」が実施され、の調査が行われました。

・祭り及び行事

平成11年度(1999)から平成13年度(2001)にかけて千葉県教育委員会が「千葉県祭り・行事調査」を実施しています。市教育委員会においては、市域内の特徴ある祭り・行事をリストアップし、広報や観光担当と情報共有しながら記録調査を行なっています。

②有形の民俗文化財

・絵馬

平成5年度(1993)から平成7年度(1995)までの3か年で、寺社の絵馬等の実態調査を千葉県教育委員会が行いました。平成4年度(1992)に県内各市町村が担当して予備調査を行い、昭和10年代以前(戦前)の絵馬、奉納額、建築彫刻を調査対象とし、予備調査に基づく悉皆調査と絵馬等が多く奉納されている寺社や地域の特色を有する事例の詳細調査が行われました。

・民俗資料

鴨川市郷土資料館には、漁労用具、商業用具、諸職用具、農業用具、林業、養蚕・製糸・機織用具など約6000点の資料が収蔵され、台帳化されています。また、所蔵者からの複写を含め約800点の写真資料を収蔵しています。

(3) 鴨川市文化財の把握調査

類型			調査名	実施主体	実施年度
有形文化財	建造物	社寺建築	近世社寺建築調査	千葉県教育委員会	昭和 52 年
	美術工芸品	彫刻	神仏像調査	天津小湊町	平成 9～14 年
			県指定有形文化財 木造不動明王坐像及び両脇侍立造調査	鴨川市教育委員会	平成 7 年
			鴨川市内波の伊八所在調査	鴨川市	平成 8 年
			長狭三十三観音調査	鴨川市郷土史研究会	平成 9 年
		古文書	竹沢家文書調査	鴨川市立図書館	昭和 52 年～昭和 53 年
		石造物	石造物調査	天津小湊町	平成 8～11 年
			石造物調査	鴨川市	平成 8 年
			石造物調査	鴨川市郷土史研究会	平成 15～20 年
民俗文化財	無形	民俗	祭り・行事調査	千葉県教育委員会	平成 11～13 年
			妙蓮寺の歌題目・ひげ題目調査	天津小湊町	平成 14 年
			天津の民俗調査	跡見学園女子大学民俗研究会	平成 5 年
		民話・伝承	長狭地方の民話と伝説調査	鴨川市郷土資料館	平成 5 年
			四方木の生活と伝承調査	武蔵大学人文学部	平成 6 年
記念物	史跡	遺跡	ロシア人来航の記録調査	天津小湊町	昭和 61 年
			廻塚遺跡発掘調査報告書	鴨川市廻塚遺跡発掘調査会	昭和 57 年
			天津小湊町内遺跡発掘調査(貝戸遺跡・二夕間遺跡・砂田遺跡)	天津小湊町	平成 4 年
			葛ヶ崎城跡調査	天津小湊町	平成 5 年
			東条地区遺跡発掘調査	東条地区遺跡調査会・鴨川市教育委員会	平成 4～6 年
			中原条里跡発掘調査	鴨川市教育委員会	平成 6 年
			東条地区遺跡発掘調査・茱萸ノ木田遺跡発掘調査	鴨川市遺跡調査会・鴨川市教育委員会	平成 7 年

		東条地区遺跡群発掘調査	鴨川市遺跡調査会・鴨川市教育委員会	平成 8 年
		茱萸ノ木田遺跡発掘調査	鴨川市遺跡調査会・鴨川市教育委員会	平成 8～9 年
		東条地区遺跡群発掘調査（中原条里跡・根方上ノ芝条里跡・西条氏館跡）	鴨川市遺跡調査会・鴨川市教育委員会	平成 4～9 年
		中世城跡調査（葛ヶ崎城跡・城崎城跡・金山城跡・江見根古谷城跡）	天津小湊町	平成 3～平成 9 年
		湯貫田遺跡・花輪遺跡発掘調査	鴨川市・総南文化財センター	平成 14 年
		葛ヶ崎城跡発掘調査	鴨川市教育委員会	平成 17 年
		鹿野岡城跡調査	鴨川市	平成 27 年
		嶺岡牧野馬土手調査	鴨川市	平成 30 年
	地質鉱物	鴨川市域の岩石	真田三郎	平成 10 年
		地形と地質調査	天津小湊町	～平成 10 年
	植物	植物調査	天津小湊町	昭和 63～平成 6 年
		海浜生物調査	天津小湊町	平成 5 年
	その他の文化財	県・市指定文化財及び史跡状況調査	鴨川市	平成 8 年
		鴨川市内歌碑・句碑所在調査	鴨川市	平成 8 年

2 今後の調査方針

（1）調査の方向性

- ・調査を進めるための体制整備
- ・専門知識を持った人材の育成
- ・文化財の体系的な研究

（2）文化財の総合的な把握

- ・分野別調査の整理
- ・未調査分野の把握

（3）分野別の文化財調査

- ・旧鴨川市地域における神仏像調査

第6章

1 鴨川市における文化財の課題

本市におけるこれまでの文化財行政の取組から問題点や不十分な点が確認されています。

また、市民アンケートの意見においても、文化財の現状の改善や広報などの発信力不足について指摘があります。これらを文化財の課題と捉え、次のように整理します。

(1) 保存に関する現状と課題

- ・文化財の現状の把握
- ・文化財所有者及び保存団体の高齢化
- ・維持管理の負担の増大
- ・担い手や後継者の不足
- ・盗難や自然災害への対処
- ・専門人材の育成
- ・文化財調査の充実
- ・文化財担当部署の体制整備

(市民アンケートから)

- ・文化財のデジタル化
- ・保存費用への助成金

(2) 活用に関する現状と課題

- ・学校教育との連携
- ・文化財の公開と活用
- ・観光振興や地域活性化への活用
- ・郷土資料館の活動
- ・データベース化
- ・関係団体との連携

(市民アンケートから)

- ・周知や広報の充実
- ・保存費用のクラウドファンディングの活用

2 将来像及び基本方針

鴨川市が目指す文化財の「将来像」(及び「基本理念」(目指すべき姿))

心豊かな未来を紡ぐ鴨川の文化財

本市の歴史文化は、かつて当地に居住していた人々の活動の成果であり、営まれてきた生活そのものです。つまり、暮らしや経験から得られた知識や知恵の蓄積により、この地域に固有の歴史文化が生み出されてきたものといえます。

この先人の築いた歴史文化が、文化財であり、郷土であり、未来でもあります。

国民共有の財産である文化財は、今を生きる我々だけのものではなく、次世代に受け継いでいくことが必要であり、我々に課せられた使命でもあります。この使命を達成するため、市民、地域、行政がともに手を取り、文化財を守り、未来へ受け継ぐことが地域の発展と豊かな市民の心が育まれる力になるものと考えます。本市の将来像の達成を目指し、それぞれの立場での取り組みを推進します。

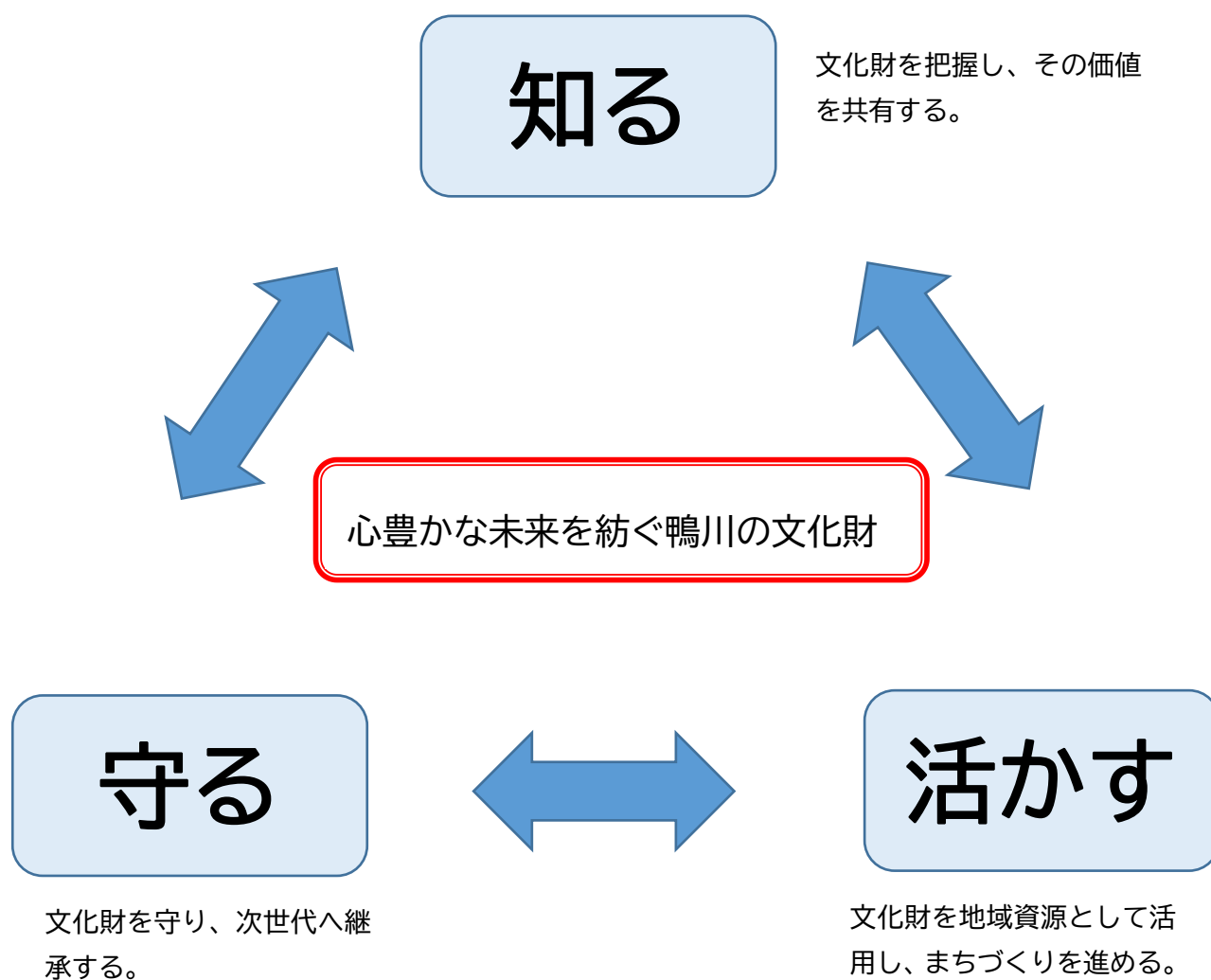
(4) 基本方針

上記の将来像を達成するため、次の3つの基本方針に基づき、文化財の保存活用を推進します。

基本方針1「知る」 キーワード：把握 共有 関心 学習

基本方針2「守る」 キーワード：保存 継承 管理 地域

基本方針3「活かす」 キーワード：活用 資源 評価 教育



3 取組

本市の将来像を達成するため、前出の3つの基本方針に基づき、本計画期間に実施する取り組みは次のとおりです。

【基本方針1 知る】

(1) 把握に関する取組

取組	概要	主体	実施時期
文化財調査の実施	各種文化財の調査方法及び調査時期の検討を進めます。	市	R7～R11

(2) 共有に関する取組

取組	概要	主体	実施時期
情報発信事業	広報誌や SNS を活用し、市内外への情報発信に努めます。	市	R7～R11
デジタルデータの作成及び公開	収蔵資料や文化財のデジタル化を推進し、情報公開に努めます。	市	R7～R11

【基本方針2 守る】

(1) 継承に関する取組

取組	概要	主体	実施時期
後継者の育成	文化財所有者や保存団体との連携により、次世代の担い手の育成を促進します。	所有者・保存団体、市	R7～R11

(2) 管理に関する取組

取組	概要	主体	実施時期
ボランティアの育成	文化財調査や文化財の管理を行うボランティアを育成します。	市民、市	R7～R11

【基本方針3 活かす】

活用に関する取組

取組	概要	主体	実施時期
観光事業	商工関係団体や観光関係団体と連携し、新たな周遊コースを設定します。	市民、所有者、市	R7～R11
生涯学習活動連携事業	郷土資料館や公民館における文化財講座の開催や、小中学校の出前授業を行います。	市	R7～R11

鴨川市文化財保存活用地域計画策定協議会 第2回会議会議録

1 日 時 令和5年10月17日（火） 午後1時30分から3時00分まで

2 場 所 鴨川市文化財センター学習室

3 出席者

（1）委 員

	氏 名	分 野	備 考
1	佐藤 惠重	学識経験者	
2	吉田 明子	学識経験者	副会長
3	庄司 政夫	文化財保存団体	会長
4	石田 三示	文化財保存団体	
5	千野 祐輔	文化財所有者	
6	杉山 智光	文化財所有者	
7	久保寺 辰彦	ボランティア団体	
8	山口 直矢	商工関係団体	
9	刈込 信道	観光関係団体	
10	稲村 弥	千葉県	代理 文化財課指定文化財班 班長 吉野 健一
11	大久保 孝雄	鴨川市	
12	鈴木 克己	鴨川市	
13	野村 敏弘	鴨川市	
14	山口 昌宏	鴨川市	

※欠席

	氏 名	分 野	備 考
1	原田 洋美	ボランティア団体	

(2) 市

	所属・職	氏名	備考
1	教育長	鈴木 希彦	
2	教育委員会生涯学習課長	岡安 泰弘	
3	教育委員会生涯学習課 課長補佐	岡安 晃広	
4	教育委員会生涯学習課 文化振興係長	畑中 博司	
5	教育委員会生涯学習課 文化振興係	永井 宏直	

(3) 傍聴者

1 名

4 資 料

- ・ 次第
- ・ 委員名簿
- ・ 出席者名簿
- ・ 資料 1 市民アンケート集計結果（速報版・10月2日時点）
- ・ 資料 2 鴨川市文化財保存活用地域計画について
- ・ 資料 3 資料編
- ・ 補足資料 1 第 2 回会議の協議事項
- ・ 第 1 回会議会議録

5 会議内容

(1) 開会（午後 1 時 30 分）

(2) あいさつ

鈴木教育長

皆さまこんにちは。教育長の鈴木です。委員の皆さま方には、日ごろから文化財行政に多大なるご協力をいただき感謝申し上げます。

また、本日も大変公私ともに忙しい中を、こうしてお集りいただきましてありがとうございます。

9月に市民アンケートを行いました。無作為抽出で300人の市民皆様を対象とした質問に、約半数の方よりご回答をいただきました。内容としてたくさんのことを伺っております。

その資料が本日は用意されておりますが、鴨川市の文化財に興味や関心がありますかという質問や、具体的に興味のある歴史や文化を教えてくださいという質問に対して、多数回答としては「鴨川市の文化財について、どういうものがあるのかあまりよくわかっていない。」がありました。

私どもは文化財行政において努力しているつもりではあったのですが、市民の皆様にこういった情報を提供するという努力が足りなかったことに反省した次第です。

この文化財が一部の関心のある方々のためだけのものになってはいないか。私たちが目指す方向は、市民の多くの方々に関心を持ってもらい、みんなのものだというような意識づけをすることであって、そのために大いに努力していかなければいけないと考えています。

本日はこの市民アンケートの集計結果をご覧いただいて、また、鴨川市の歴史文化の特徴や鴨川市が目指す文化財の将来像などについて、皆さまからご意見をいただくこととなっています。

10年後20年後を見据えて、この地域の文化財がどうあるべきであるかということについて、皆さまから忌憚のないご意見をいただきたいと思いますと考えていますので、限られた時間ではございますけれども、よろしくお願いします。

庄司会長

本日の会議から計画内容の実質的な内容を協議していただくこととなります。

市民アンケートの集計結果の報告、将来像や基本方針などについて、事務局案に対するご意見をいただきたいと思います。

どうぞ皆さま方には活発なご意見を賜りますよう、そして会議の円滑な運営にご協力をお願い申し上げます。

(3) 議事

庄司会長が議長となり、議事進行を行う。

議長が吉田明子委員を会議録署名委員として指名した。

議事1 市民アンケートについて

資料1により、事務局から説明した。

コメント及び質疑等は、次のとおり。

吉野氏（稲村委員代理）

たいへん面白いアンケートだと思った。他の市と比べると文化財に関心を持っている方、文化財を大切だと思っている方が非常に多いと思う。

年配の方や文化財の所有者・保存団体の方も多く入っているということも関係しているのかもしれないが、地域に愛着を持ち文化財を大切だと思っている方が非常に多い市だと認識した。

あなたの好きなもののリストと自由回答、また最後の自由欄でも鴨川は風景・眺望が素晴らしいといっている方が非常に多かったので、地元の方々は鴨川の風景というものを非常に大切に思っていることがわかる。

あなたの好きなものの中で食に関するものが多いという話があったが、58番のチョコカタメターノの割合、数は低い。実は先日県も食に関するアンケートを県内の市町村で実施したが、やはりチョコカタメターノは知名度が低いという状況がある。鴨川市においても同じ状況だと認識した次第である。

佐藤委員

アンケートにより、いろいろな声が出されたのは非常に良いと思う。

教育長の挨拶の中で、「関心をもたせる、意識づけることが大切ではないか。それが課題だ。」という話があったが、市民に関心を持ってもらうために、例えば市民遺産のような言葉があってもいいのではないか。世界遺産等いろいろあるわけだが、鴨川市市民遺産というような表現も含めて考えれば、より意識づけにつながるのではないかという感想を持った。

この後も、皆さんが色々としてくれれば、さらに深められるのではないかと思う。

石田委員

これは速報分ということだが、もう少ししっかり深いところでまとめていくのかどうか。また、アンケートを370出して122という、回答率3分の1はちょっと低いという気がするがどのように押さえているか。

事務局・畑中

本日の資料は単純集計だが、今後の分析については、例えば世代ごとにどのような文化財に対する考え方があるかといったクロス集計もしていきたいと考えている。現時点で138件の回答が確認できているので、それがまとまり次第わかるように細かな分析を行っていく。

次に回答率については、一般的な例えば総合計画のようなまちづくり全般に関するアンケートでは35%とか40%ぐらいがこれまでのところだと最大値かと思っているので、悪くはない数字だと考えている。

情報の充実のため、もう少し回答を集める努力をしていきたい。また、色々なヒアリング等も含めて情報を仕入れていきたい。

アンケートは9月30日で締め切ってはいるが、ホームページ上には回答フォームが残っているので回答できる状況である。10月末で締め切って集計作業に入る予定。

杉山委員

このところ寺としてはコロナの関係、水害など諸々あって非常に苦しいところである。2日前も屋根から雨漏りがあり、修復でまた費用がかかるであろうかと危惧している。

そのあたりも鑑みて全体的に見ると、先ほどのチョコカタメターノ自体、私なども内容がわからないのでどういうものなのか知りたいところである。

庄司会長

他に意見はあるか。ないようであれば、以上で議事の1は終了する。

議事2 鴨川市文化財保存活用地域計画について

・鴨川市の歴史文化の特徴、計画の対象について

補足資料1により、事務局から説明した。

コメント及び質疑等は次のとおり。

庄司会長

鴨川市の歴史文化の特徴、そして計画の対象について説明があった。補足資料1を加えながらの意見、提案等を伺いたい。

千野委員

特に意見はない。事務局の考えていることでよい。

久保寺委員

文化財リストの「郷土の偉人」という大きな枠組の中で、偉人という定義はどのように決めるのか。

事務局・畑中

郷土の偉人のリストを資料3（2ページ）にすでに作っているが、この方が偉人なのか偉人でないのかという線引きをするというよりは、このようなことをされた方が過去にいたと市民皆さんが知っている方であれば、このリストに入ってくるものと考えている。

現在このリストには13人の方が入っていて、まだまだ増えていくものであり、なるべく多くの方をリストに入れることを考えている。最終的にはこの協議会又は文化財保護審議会等で、すべての方をリストに入れるほうがよいのかどうかについて一度議論していただきたいと思う。

久保寺委員

鴨川市郷土史研究会でも郷土の偉人シリーズというのを作っていて、その中にたしか27人くらい入っていた。今後も増えるという形であるなら別に問題はないと思う。

吉野氏（稲村委員代理）

偉人の件だが、「人」は計画の中では文化財として取り扱えないと思う。『『誰誰のなんとか』のようなエピソード、行動、そのような感じで取り扱うようにすべきだ。』と指導を受けるのではないかと思う。

庄司会長

事務局はそのあたりを精査するように。

事務局・畑中

エピソードという形で取りまとめていく。

石田委員

歴史文化の特徴（５）黒潮の恵みがもたらす食文化のところの「太巻き寿司」は、太巻き祭寿司のことだとすると、これはたぶん、私たちが文化活動を始めたころ県の栄養短大の先生が君津市・袖ヶ浦市周辺の食文化を県内に広め、それを私たちが教わって鴨川で広めたものである。

それから 25 年くらいたって鴨川で祭寿司としてかなり広まってはいるが、地域の食文化と位置づけていいのだろうか。

事務局・畑中

鴨川の祭寿司が広まっていった経緯もしっかりと記載したいと考えている。現在、もしかすると、さらに独自の文化に発展していることもなきにしもあらずだと思う。

石田委員

鴨川にはもっと簡単な花の柄などの太巻き寿司まではあったと思うが、あれだけいろいろな柄のある巻き寿司、あそこまで祭寿司の発展されたものはたぶんはなかった。

これは栄養短大の先生が県内中に広めたもので、たぶん鴨川だけではなくいろいろなところに広がって千葉県食文化になっていると思う。

袖ヶ浦市や君津市の方々から「うちが本家だ。」「元祖だ。」と言われるかもしれない。

庄司会長

祭寿司については県内の盛んな市町村もあるだろうから、事務局は訂正をしておくように。

吉野氏（稲村委員代理）

鴨川市の歴史文化の特徴の中で海に関するものとして、（５）黒潮の恵みがもたらす食文化とあるが、海浜の風景とか、あるいは海の生業とか、そういった視点があってもいいのではないかな。一般の多くの県民の皆さんは、鴨川というと『海』と思っていると思うので。

千葉県は、こういった海を県のイメージとしてアピールするということをはじめている。千葉県の「葉」を「波」という字にして、波を千葉県のイメージとしているが、その中で特に鴨川は非常にこの海をイメージさせる市だと思うので、そういったプランニングの観点からも海という項目を設けてほしいと思う。

あと素朴な疑問だが、嶺岡牧と波の伊八と一緒に並んでいるのはどうしてなのか。

食文化について、さんが焼きとか太巻き寿司は料理、チッコカタメターノも料理・食品加工の技術だが、イエエビ・キンメダイ・ハバノリは食材、あるいは生き物の種類ということになり、これは文化なのだろうか。

よく文化庁で、「千葉県のイメージはなんですか。」と聞かれたときに「イセエビです。」や「キンメダイです。」と話すと、「それって文化ではないですよ。食材ですよ。生き物ですね。」と言われてしまう。千葉県のイメージについて「千葉県民は、新鮮な食材を新鮮な状態で食べる

のがごちそうだと思っているのですけれど、全国スタンダードでいうと、それはただの食材で、何らかの技術を伴わないと食文化じゃないですね。」と言われることがある。

そこをひと工夫していただき、食べ方等そういったもので地域の特色を表す何かが出ると思う。

ハバノリもたしかにこの地域の特徴的な食材だと思うし、食べ方もお雑煮とか味噌汁とかがあるのは承知しているのだが、そういった部分、その表現としてももう少し彩りがあったほうがいいかと思う。

事務局・畑中

まず海に関する項目について、資料2の2ページ本文の中には「清澄・嶺岡山系と両山系に挟まれた長狭平野」、そして「太平洋に面した長い海岸線」と、海に関する記述がある。6つ目の項目として、海を特徴づける、もしくは他のところと合わせて海を表現するようにしたい。

2つ目の「(3) 刻まれる嶺岡牧と波の伊八の記憶」について、両方とも近世の事項ではあるが、刻まれるという言葉で遺跡と彫刻を掛けたものである。しっかりと整理をしていきたい。

最後の食文化について、例えばキンメダイは、食材として以外に釣りキンメという漁法の観点からも文化と言えると思う。またイセエビは、太海地域で綿の網で水揚げしており、県内でも多分他はないと思う。皆さんナイロン製の網を使っていると思うが、太海地区ではずっと伝統的に綿の網を使っている。こういうことも多くの特徴だと思うので、漁法や食べ方、そういった複数の観点から取り上げて、「単なる食材ですよ。」と言われないように工夫をしていく。

山口委員

飲食店では地元の新鮮な食材を活かして丼などにしていて、先ほどの意見があったが、「千葉は、食材はあるが料理がない。得意料理、加工品が弱い。」と訪れた方や専門家の方に言われている。

食文化というと、例えばハバノリだったら、「この地域ではお正月にいくら高くても絶対に欠かせないものですよ。」というような、その食材に対する物語性というか説明があり興味を持ってもらえるようなことが必要になってくると思う。

どうしても海はつながっているし道一本で隣の町なので、隣の町でも同じものがやはり獲れるのだが、「なぜ鴨川でこれを紹介するのか」という部分を組み入れてやっていくのがよいのではないか。

商工会の立場だと、例えばチッコカタメターノなら「チーズとは何が違うのですか。地元の人はどうやって食べるのですか。」と興味関心を持ってもらい、「こういうふうにして食べるのですね。」「こちらに来て食べてみてください。」というように『鴨川に来てもらって飲食してもらう』ということが重要になる。

いまアジフライが流行っているが、地元の飲食店では「うちではスーパーで出しているものとは違って、獲れたてのものを揚げたてのふわふわの状態で提供しています。」と、店独自の魅力を発信することも必要だと考える。

単なる食材名ではなく、「こういうふう食べるものですよ」というような内容を加えていった方が食文化という形にはなるのではと思った。

刈込委員

観光分野の立場から言うと、まずは資料2の8ページにある「知る」ことから始まるという中で、私どもの業界の中では「活かす」というところをメインにして、『それをいかに活かして、鴨川への誘致人口を増やし、お金を落としてもらい、それを守るために活用する』という形になっていくのであろうかと思っている。

私が所属するプラットフォームの中でも、そういった事業面を今後具体的に進めていかなければならないと思っている。

庄司会長

他に意見はあるか。ないようであれば、鴨川市における文化財の課題、将来像及び基本方針について、事務局に説明をお願いする。

・鴨川市における文化財の課題、将来像及び基本方針について

資料2、3により、事務局から説明した。

コメント及び質疑等は次のとおり。

事務局・畑中

資料3について補足説明をさせていただきたい。

資料編の例えば③の祭礼伝統行事については、これがすべてを網羅しているとは考えていない。

例えば、現在実施されていない地区の祭礼などの情報もなるべく情報として掲載していきたい。このアンケートで祭礼や伝統行事については皆さんの関心が非常に高いということがわかったので、どこかでこれを整理して、今のタイミングであれば地域計画に反映できることから、もう少し内容を詰めていきたい。

吉野氏（稲村委員代理）

鴨川市の基本構想の中の将来都市像の中で、「活力あふれる健やかな交流のまち鴨川」とある。その基本理念の最初に「交流」と書いてあるが、どういうイメージでこの言葉を使っているのか、どういった意味合いなのか教えていただきたい。

大久保委員

多くの人々が集って交流に支えられた賑わいあふれるまちづくりを目指すという観点から、「交流のまち」を基本理念としている。

吉野氏（稲村委員代理）

非常に「交流」という言葉がいいと思った。文化財の基本理念に、「交流」というものをどこかからめてほしいと思った。

資料2（8ページ）活用のところで観光事業という取組がある。大々的な観光もあるが、周辺地域の人の交流だとか、県内の人たちが入ってきて地元の人たちと交流するとか、そういったも

のも観光というように絡めていくことがイメージしやすいと思った。

庄司会長

この計画は令和7年度から10年間ということだが、鴨川市の基本構想が令和7年度で終わり、教育振興計画も令和7年度で終わるということで、この2つの上位計画との整合性はどのように考えているか。

事務局・畑中

現状では、この文化財計画が1年早くスタートするが、最終的にはどこかで計画期間を合わせ、その後は次の市総合計画に勘案した形で作っていくと思う。

まず10年間をひとつの期間として設定しているが、例えばさらに4年延ばし14年間にして次の総合計画と合わせる、という方法もある。

いずれにしろ、どこかで総合計画と期間を合わせることになると思う。

庄司会長

上位計画と整合の取れない計画期間があるということなので、そのあたりは十分注意したほうがいいと思う。

例えば、途中5年後に改訂するとか見直しをするとか、そういうことで整合性をとっていく必要がある。こちらの計画が総合計画と離れたものにならないように気をつけていただきたい。

事務局・畑中

計画の目標を設け、その達成度をもってその事業の進捗等を確認し、計画の進行管理をしていく。

やはり、5年がひとつのスパンになると思うので、5年後において必要に応じて改訂をするということもしっかりと考えて進めていきたい。

石田委員

鴨川市における文化財の課題というところに、文化財所有者及び保存団体の高齢化・維持管理の負担の増大・担い手や後継者の不足とあるが、これはもうまさしく近々の課題である。各地域の祭りを存続できないような状況になっている。

ここでこれだけの課題を挙げてあっても、それに対する対策、人員確保であるとか、もっと大きな問題にはなるのだろうが、その辺りの視点を事業の中に入れていかないと、結局は絵にかいた餅になってしまう。ただ「文化財ありますよ、でも保全できなくなっていくます」というような事態にならないように、是非お願いしたい。

事務局・畑中

対策については、資料2（8ページ）の取組と、市で行う事業または地域の皆さんに実際に行っていただく事業、課題と、一体的に考える必要がある。

この事業や取組については、文化財担当部署だけではなく、庁内のさまざまな関係課とワーキ

ングチームを設けて事業を検討するということにしているので、その中でしっかりと検討して次の会議で検討内容について示したいと考えている。

吉田委員

資料2の1 鴨川市の歴史文化の特徴に海の項目も不足という件で、本文の「長い海岸線」というところから、「太海江見天津小湊鴨川の海の近くに暮らす人々の文化が少し薄くなっているのではないか」という印象を受けたので、ご検討いただきたい。

事務局・畑中

海に関する項目や漁村の街並みなどの項目をしっかりと充実させていきたい。

庄司会長

他に質問、意見がなければ、本日の議事は以上とする。

(4) その他

次回の会議は、2月ごろの開催を予定する。1か月前を目安に日程調整を行う。

情報充実のため、委員の皆さまにも本日配付した市民アンケートにご記入いただきたい。

将来像については、いただいた意見をもとに次回もう一度提案する。

意見があれば別途事務局まで連絡をいただきたい。

(5) 閉会（午後3時00分）

鴨川市附属機関等の会議の公開に関する実施要領第7条第3項の規定により議事録の内容について確認します。

令和5年12月28日

吉田 明子